

# 在宅介護実態調査結果

板橋区  
令和 2 年 6 月



# 目 次

I 調査概要	1
II 調査結果に基づく分析と課題	3
1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	3
2 仕事と介護の両立に向けた支援	3
3 ニーズに応じた支援・サービスの提供体制の検討	4
III 調査結果	5
1 本人の概況(A票)	5
(1) 世帯類型	5
(2) 家族による介護の頻度	5
(3) 主な介護者と本人との関係	5
(4) 主な介護者の性別	6
(5) 主な介護者の年齢	6
(6) 主な介護者の居住地	7
(7) 主な介護者が行っている介護	7
(8) 介護のための離職の有無	8
(9) 保険外の支援・サービスの利用状況	9
(10) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	10
(11) 施設入所の検討状況	11
(12) 本人が抱えている傷病	12
(13) 訪問診療の利用の有無	13
(14) 介護保険サービスの利用の有無	14
(15) 介護保険サービス未利用の理由	14
2 主な介護者の就労状況(B票)	15
(1) 主な介護者の就労の有無・勤務形態	15
(2) 働き方の調整の状況	15
(3) 就労継続に向けて効果的な勤め先からの支援	15
(4) 就労継続の見込み	16
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、不安を感じる介護	16
(6) 介護をするうえで困っていること	17
3 介護保険認定データ	18
(1) 年齢	18
(2) 性別	18
(3) 要介護度(二次判定結果)	18
(4) 障がい高齢者の日常生活自立度	19
(5) 認知症高齢者の日常生活自立度	19
(6) サービス利用の組み合わせ	20
(7) 介護サービスの利用回数	20
4 検討テーマ別の分析結果	21
[1] 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	21
(1) 施設入所の検討状況	21
① 要介護度別	21
② 世帯類型別	21
(2) 介護者が不安を感じる介護	22

① 要介護度別	.....	22
② 認知症自立度別	.....	23
(3) サービス利用の組み合わせ	.....	24
① 要介護度別	.....	24
② 認知症自立度別	.....	25
③ 世帯類型別	.....	26
(4) サービス利用回数と施設入所の検討状況	.....	27
① 訪問系サービス	.....	27
② 通所系サービス	.....	27
③ 短期系サービス	.....	27
(5) サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護	.....	28
① 訪問系サービス	.....	28
② 通所系サービス	.....	29
③ 短期系サービス	.....	30
<b>[2] 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制</b>	.....	<b>31</b>
(1) 就労状況別 主な介護者の状況	.....	31
① 世帯状況	.....	31
② 本人との関係	.....	31
③ 年齢	.....	31
④ 男女別	.....	32
⑤ 介護している本人の要介護度	.....	32
⑥ 介護している本人の認知症自立度	.....	32
⑦ サービス利用の組み合わせ	.....	33
⑧ 訪問診療の利用	.....	33
⑨ 施設入所の検討状況	.....	33
⑩ 介護の頻度	.....	33
(2) 就労状況別 主な介護者の状況	.....	34
① 就労状況別	.....	34
② 要介護度別(フルタイム勤務+パートタイム勤務)	.....	34
③ 認知症自立度別(フルタイム勤務+パートタイム勤務)	.....	34
④ 就労継続見込別 施設入所の検討状況	.....	35
⑤ 就労継続見込別 介護者が不安に感じる介護	.....	35
⑥ 就労状況別 介護をするうえで困っていること	.....	36
⑦ 就労継続見込別 介護のための働き方の調整	.....	37
⑧ 効果的な勤め先からの支援	.....	38
<b>IV 資料編(在宅介護実態調査調査票)</b>	.....	<b>39</b>

## I 調査概要

### (1) 調査の目的

第8期介護保険事業計画の策定にあたり、在宅で要支援・要介護認定を受けている方の家族介護の状況や介護保険サービスの利用状況を分析し、「在宅生活の継続」と「介護者の就労継続」に資するサービスの在り方を検討するために実施した。

### (2) 調査対象

在宅で生活している要支援・要介護認定者のうち、調査期間中に更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受けた方で、調査への協力に同意された方 644名

### (3) 調査方法

要介護認定調査実施時の、訪問調査員による聞き取り調査

### (4) 調査期間

平成31年4月～令和2年3月

### (5) 調査項目

調査票	調査項目
A票	本人の概況 ・世帯類型・家族等の介護の有無・介護保険以外の支援・サービスの利用状況 ・介護のための離職の有無・施設入所の検討状況 など
B票	主な介護者の就労状況 ・勤務形態・働き方の調整・仕事と介護の両立に効果のある勤務先の支援 ・就労継続の可否に係る意識・介護者が不安に感じる介護 など

※調査項目は厚生労働省が示した調査項目に、一部区で独自にオプション項目を追加して実施した。

### (6) 用語の定義

#### <サービス利用の分析に用いた用語の定義>

用語	定義
未利用	「住宅改修」、「福祉用具貸与・購入」のみを利用している方については、未利用として集計している。
訪問系	(介護予防)訪問介護、(介護予防)訪問入浴介護、(介護予防)訪問看護、(介護予防)訪問リハビリテーション、(介護予防)居宅療養管理指導、夜間対応型訪問介護「訪問系」として集計している。
通所系	(介護予防)通所介護、(介護予防)通所リハビリテーション、(介護予防)認知症対応型通所介護を「通所系」として集計している。
短期系	(介護予防)短期入所生活介護、(介護予防)短期入所療養介護を「短期系」として集計している。
その他	小規模多機能 (介護予防)小規模多機能型居宅介護を「小規模多機能」として集計している。
	看護小規模 看護小規模多機能居宅介護を「看護多機能」として集計している。
	定期巡回 定期巡回・随時対応型訪問介護看護を「定期巡回」として集計している。

#### <サービス利用の組み合わせの分析に用いた用語の定義>

用語	定義
未利用	上表と同じ
訪問系のみ	上表の「訪問系」もしくは「定期巡回」のみの利用を集計している
訪問系を含む組み合わせ	上表の「訪問系(もしくは定期巡回)+「通所系」、「訪問系(もしくは定期巡回)+「短期系」、「訪問系(もしくは定期巡回)+「通所系」+「短期系」、「小規模多機能」、「看護多機能」の利用を集計している
通所系・短期系のみ	上表の「通所系」、「短期系」+「通所系」+「短期系」の利用を集計している

## (7) 調査結果の見方・分析方法

- ・ 調査結果の数値は各設問の回答者数(n)を基数とした構成率(%)で表示している。  
小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しているため、合計値が 100%とならない場合がある。
- ・ 複数回答ができる設問では、その回答率(%)の合計は 100%を超える場合がある。
- ・ 報告書の作成にあたっては厚生労働省が配布した「在宅介護実態調査集計分析ソフト 2018」を使用し、調査結果と要介護認定データを結び付けて集計・分析を行っている。

## II 調査結果に基づく分析と課題

### 1. 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

[P.21-30]

- ・介護者が不安に感じる介護は、要介護3以上では「認知症状への対応」「(日中や夜間の)排泄」、要介護1・2では「外出の付き添い、送迎等」が多い。
- ・重度化が進むと施設入所を検討する割合が高くなるが、多頻度の訪問サービスの利用で不安が軽減する傾向が見られた。

要介護度が重度化しても、在宅生活を継続してもらうためには、どのような支援や介護サービスが必要かを検証するために「施設入所の検討状況」や「介護者が不安に感じる介護」、「サービス利用の状況（組み合わせ・利用回数）」について分析を行った。

重度化が進むと、施設入所の検討率は高くなり、介護者が不安に感じる介護も「認知症状への対応」「(日中や夜間)の排泄」などを中心に増えていくが、「訪問系サービス」を頻回に利用しているケースでは介護者の不安が軽減される傾向が見られた。

在宅での生活に介護職や看護職等の目が入る機会が増えることで、介護者の負担や不安感の軽減、生活環境の改善に繋がっていると推察できることから、要介護者本人や家族介護者のニーズや世帯状況に応じて柔軟に対応できる小規模多機能型居宅介護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護などの訪問系サービスを充実させていくことが重要だと考えられる。

### 2. 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

[P.31-38]

- ・就労している介護者は「日中、家を空けることを不安に感じている」割合が高い。
- ・就労継続は困難だと考えている介護者ほど、働き方の調整をしながら仕事と介護の両立を図っており、「認知症状への対応」や「(日中や夜間の)排泄」に不安を感じている。
- 介護に対する負担感やストレスを抱えている割合も高い。

就業している介護者が、仕事と介護を両立していくために必要な支援やサービスを検証するために、「就業継続の見込み」や「介護をするうえで困っていること」について分析を行った。

「介護のために仕事を辞めた家族や親族はいない」が約8割だが、就労継続を「(やや+かなり)難しい」と考えている就労者は2割おり、7割以上が働き方の調整をしながら介護をしている。

国が進めている働き方改革や企業における介護休業等の両立支援策の動向を踏まえつつ、区では見守りや認知症施策の充実を図るとともに、介護者が自分の就労状況に合わせて、不安やストレスの軽減を図れるようなサービスを選択して利用できるよう、積極的に情報提供していく必要がある。

### 3. ニーズに応じた支援・サービスの提供体制の検討

- ・保険外サービスとして「見守り・声かけ」、「外出支援(通院、買い物など)」のニーズが高い。
- ・「単身世帯」は「訪問系」を中心としてサービスの利用率が高く、重度化に伴って徐々に在宅生活が困難になる。
- ・「夫婦2人世帯」では在宅生活の継続意向が強いことから、高齢介護者に過大な負担が掛かることの無いよう留意していく必要がある。
- ・在宅での療養生活を維持するためには、訪問診療と「訪問系」サービスが不可欠なため、需要にあった提供体制を整備していく必要がある。

#### ①保険外の支援・サービス(地域資源の整備)

[P.9-10]

現在利用されている保険外サービスでは、最も多い「配食」でも1割程度と利用率は低いが、今後の在宅生活に必要な支援として「見守り・声かけ」「外出支援(通院、買い物など)」をあげている方がそれぞれ3割程おり、ニーズが高くなっている。

特に「単身世帯」や比較的軽度な層でのニーズが高めであり、地域性も考慮しつつ、必要なサービスを整備していく必要がある。

#### ②世帯類型に応じた支援の検討

[P.21、P.26]

「単身世帯」では「訪問系を含む組み合わせ」を中心としてサービスの利用率が高く、重度化が進むと在宅生活の維持が難しくなっている。

「夫婦のみ世帯」「その他の世帯」では「通所系・短期系」の利用率が高い傾向がある。

いずれの世帯類型でも介護度が重度化するにつれて「訪問系」サービスの利用が伸びているため、在宅生活者の増加に対応できるサービス供給体制を進めていく必要がある。

また「夫婦2人世帯」では重度化が進んでも在宅生活の継続を希望する割合が顕著であることから、高齢介護者の負担の軽減を図っていく必要がある。

#### ③医療ニーズの高い在宅療養者の支援

[P.13]

重度化に伴い、訪問診療と「訪問系」サービスを利用して在宅生活を送る割合が高くなるため、医療と介護の情報連携を進めつつ、療養生活を支える訪問系サービスの充実が必要である。



### Ⅲ 調査結果

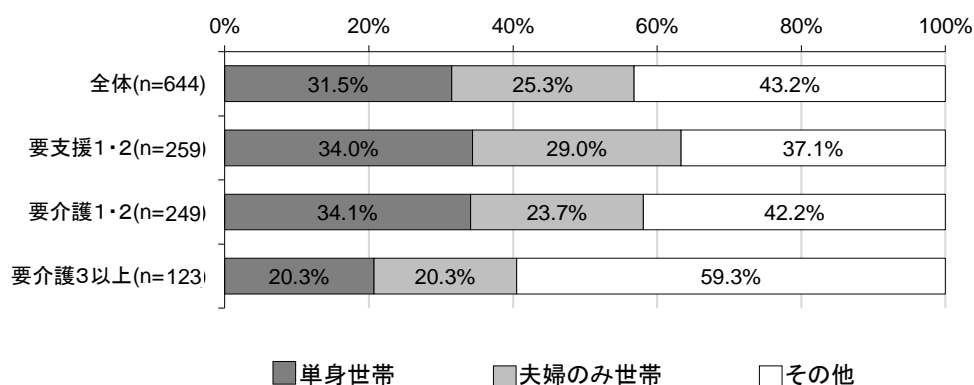
#### 1 本人の概況（A票）

##### (1) 世帯類型

全体では「単身世帯」が31.5%、「夫婦のみ世帯」が25.3%、「その他」が43.2%となっている。

「要介護3以上」では「単身世帯」が減り、「その他」世帯の割合が5割を超えている。

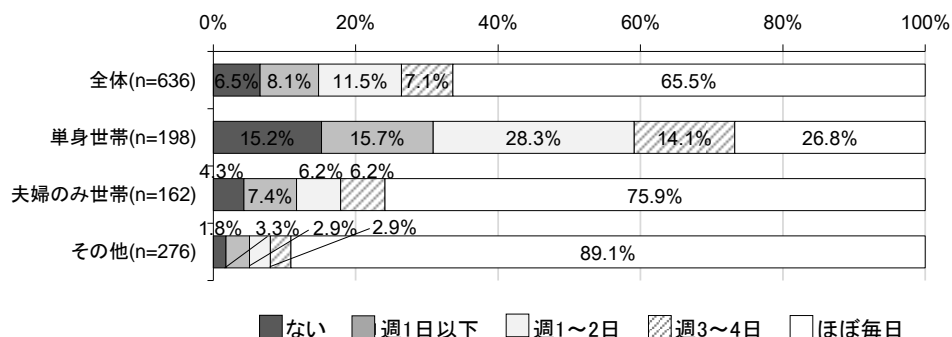
要介護度が重度化すると、単身での在宅生活が困難になっている状況が伺える。



##### (2) 家族等による介護の頻度（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）

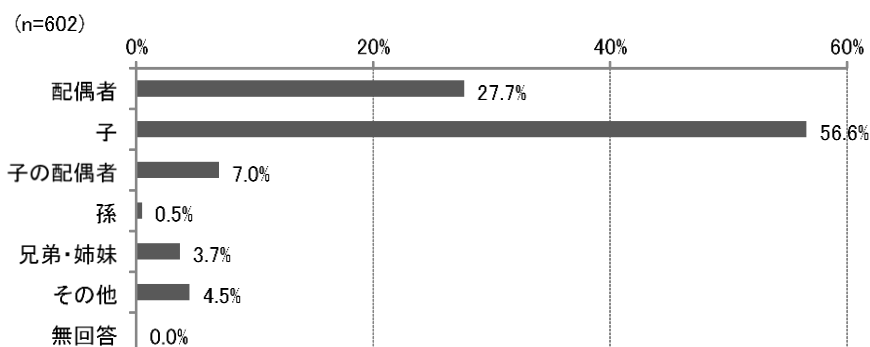
「夫婦のみ世帯」「その他」世帯では、「ほぼ毎日」が最も多く、いずれも7割を超えている。

「単身世帯」では「週1～2回」が28.3%で最も多く、「ない」も15.2%いる。



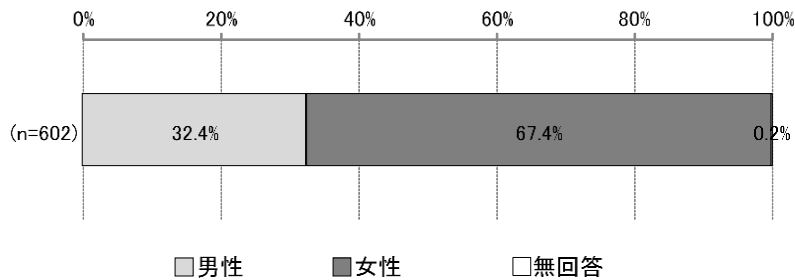
##### (3) 主な介護者と本人との関係（続柄）

「子」が56.6%と最も多く、次いで「配偶者」の27.7%となっている。



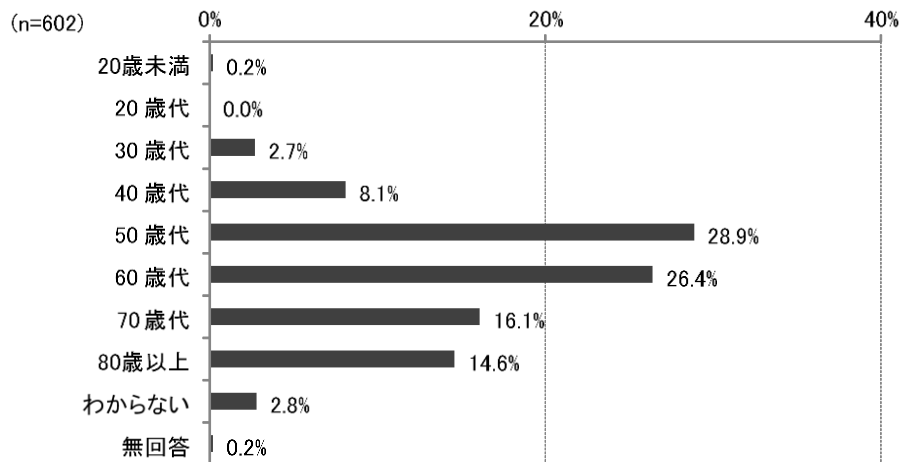
#### (4)主な介護者の性別

「女性」が67.4%と7割近くを占めている。



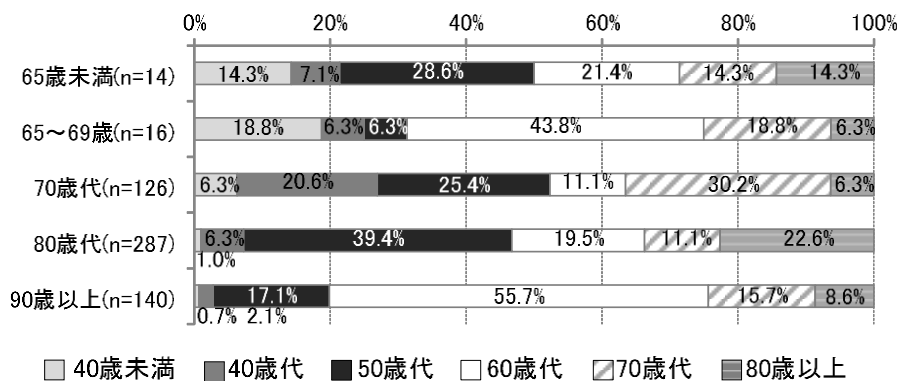
#### (5)主な介護者の年齢

主な介護者は「50歳代」が28.9%と最も多いが、60歳代以上が全体の57.1%に上り、「80歳以上」も14.6%いる。



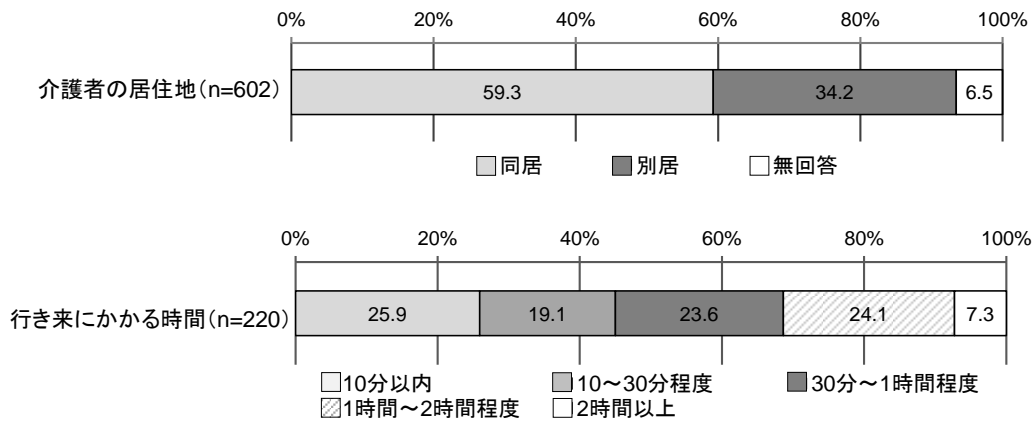
#### (5)-1 本人の年齢別 主な介護者の年齢

本人の年齢が「70歳代」では、「50歳代」以下の勤労世代が主な介護者である割合が5割を超えている。また、「80歳代」が「80歳代」を介護している割合が2割を超えている。



### (6) 主な介護者の居住地

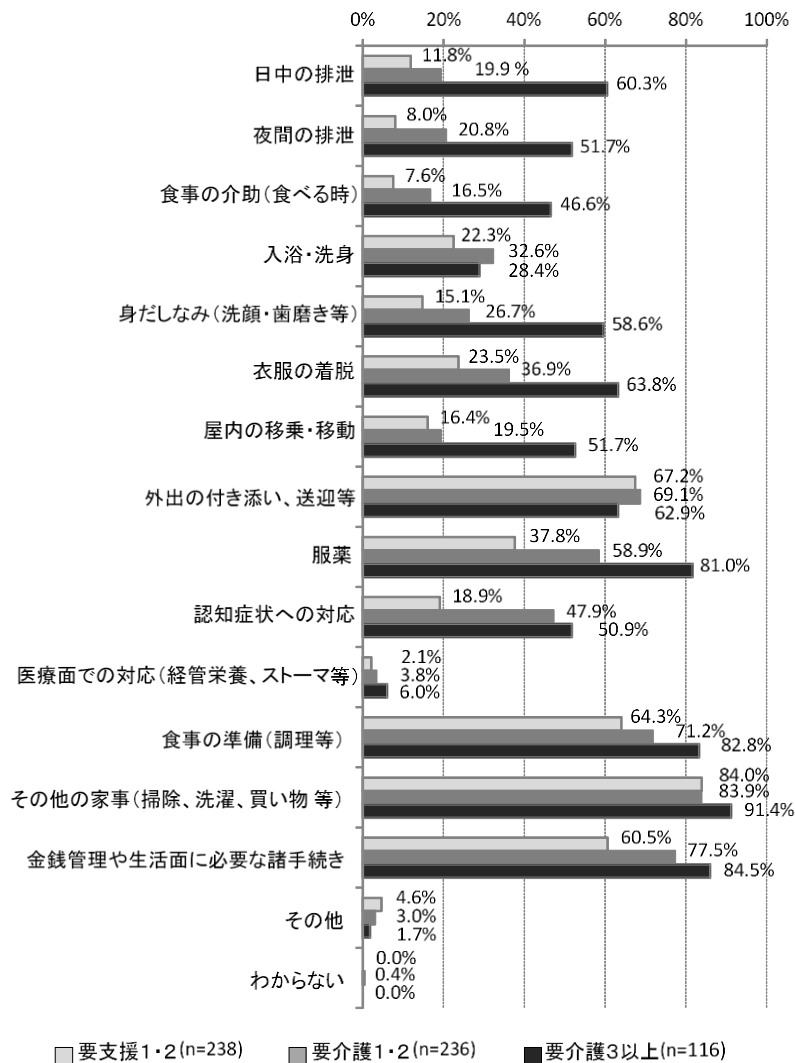
「同居」が 59.3%と約6割となっている。別居の場合、行き来にかかる時間は「10 分以内」が 25.9%、「10～30 分程度」が 19.1%で、30 分以内の距離に居住している割合は 45%となっている。



### (7) 主な介護者が行っている介護

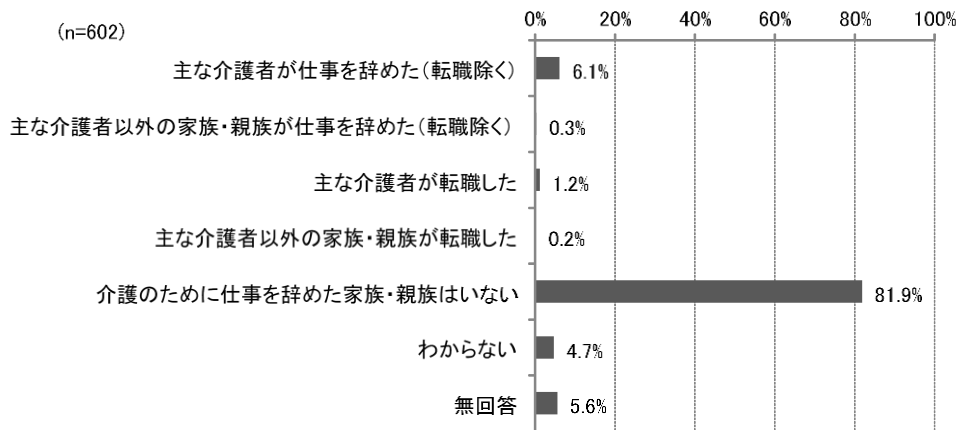
「要支援1・2」「要介護1・2」では「その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等)」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」などの生活支援や「外出の付き添い、送迎等」が多い。

「要介護3以上」になると「服薬」「衣類の着脱」「身だしなみ(洗顔・歯磨き等)」「(日中や夜間の)排泄」、など身体介護を行っている割合も高くなっている。



### (8) 介護のための離職の有無

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が81.9%で8割を占めている。



### (9) 保険外の支援・サービスの利用状況

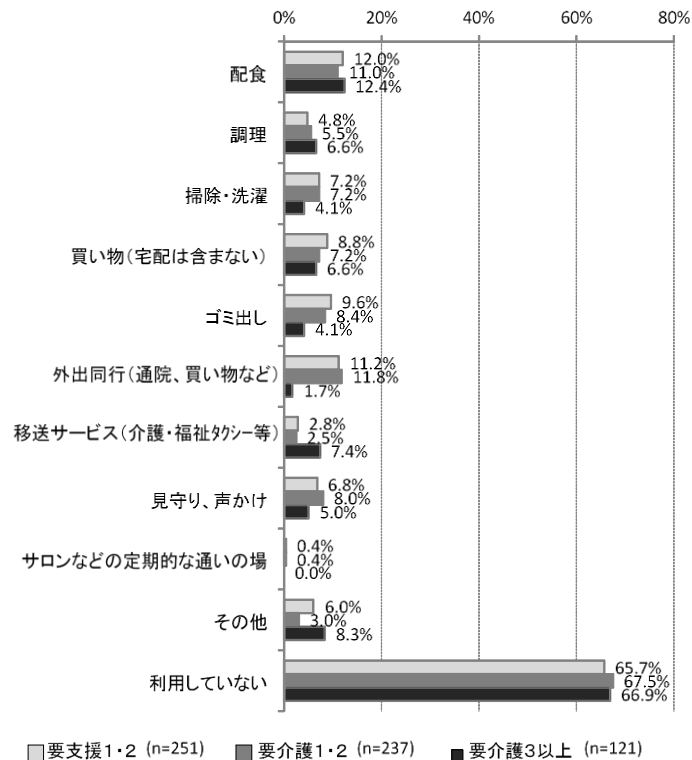
要介護度別に見ると、いずれの区分でも「利用していない」が7割弱で大きな差は見られない。

世帯類型別に見ると、「単身世帯」では約5割が何らかの支援やサービスを利用しており、「配食」「買い物同行(通院・買い物など)」「見守り、声かけ」の順で利用している割合が高い。

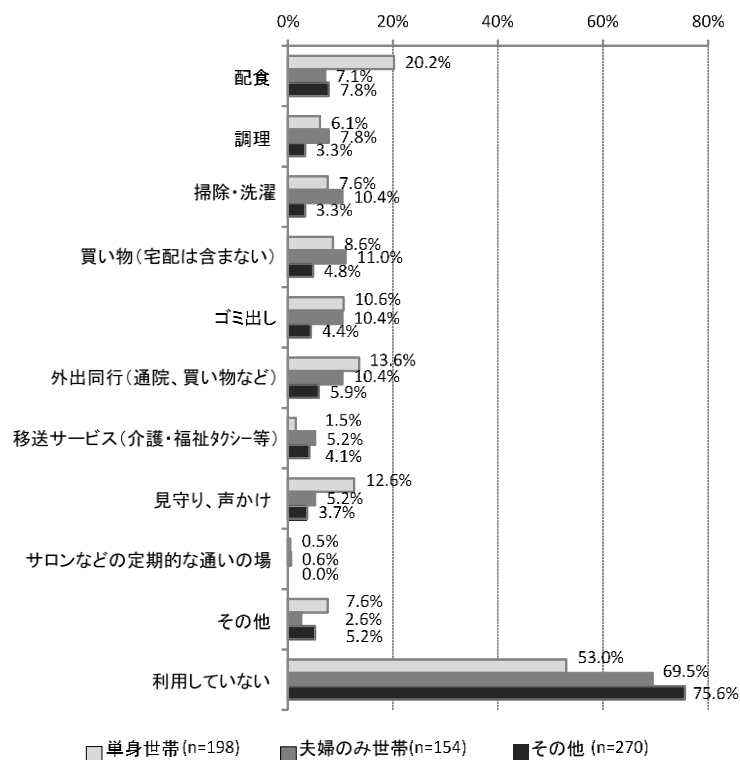
「夫婦のみ世帯」では「買い物」「ごみ出し」「外出同行」がそれぞれ約1割程度、「その他」の世帯では「利用していない」が75.6%と利用している割合が低い。

「サロンなどの通いの場」は、いずれの世帯類型でも1%以下と特に低くなっている。

#### ① 要介護度別



#### ② 世帯類型別



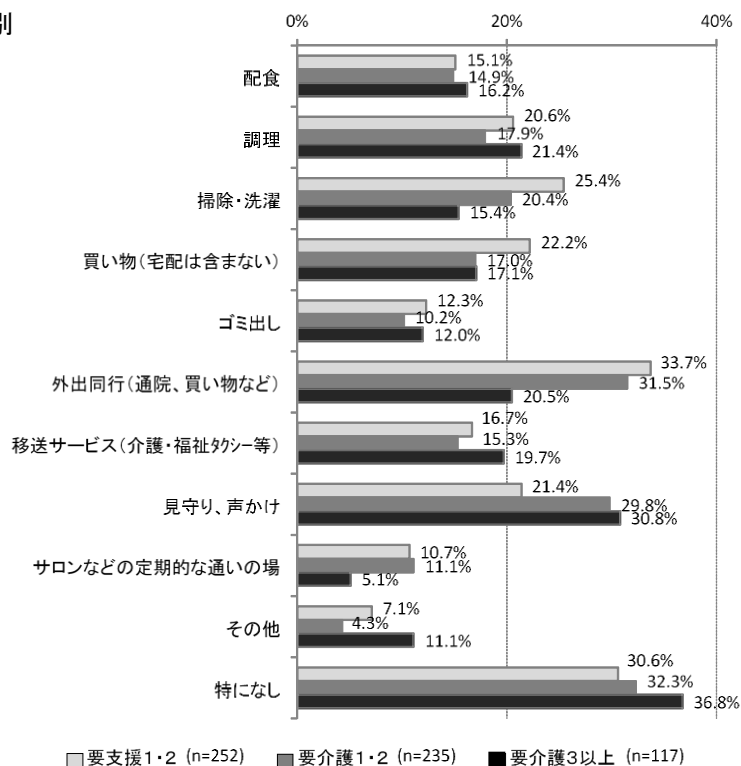
## (10) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

要介護度別に見ると、「要支援1・2」では「外出同行(通院、買い物など)、重度化するにつれて「見守り、声かけ」等の割合が高くなっている。

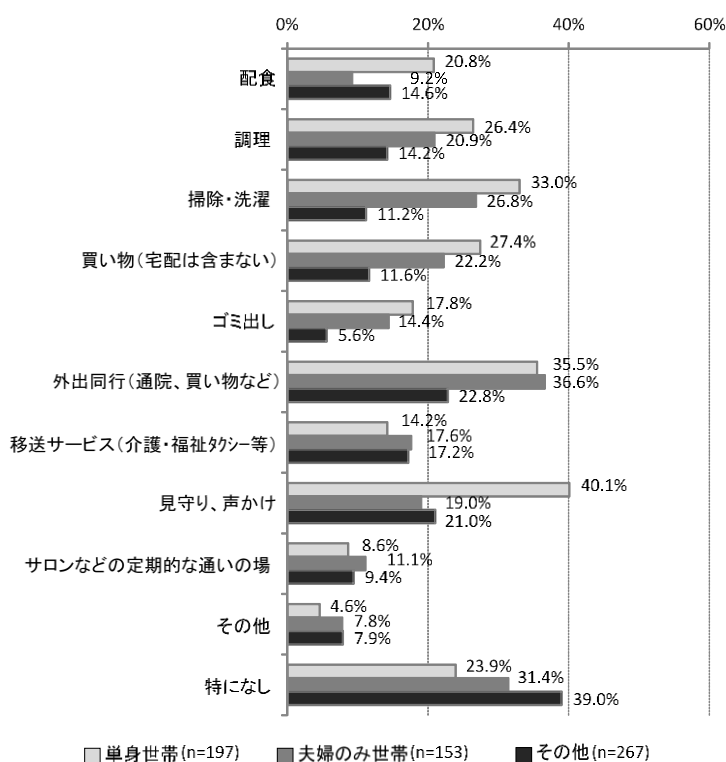
世帯類型別に見ると、「単身世帯」では「見守り、声かけ」が最も多く、「外出同行(通院、買い物など)」、「掃除・洗濯」も約3割となっている。「特になし」とした割合は23.9%と最も低く、在宅生活を維持するために様々なサービスの利用が必要だと考えている割合が高い。

「夫婦のみ世帯」では「外出同行(通院、買い物など)」が最も多く、「その他」世帯では「外出同行」「見守り、声かけ」がそれぞれ2割程度となっている。

### ① 要介護度別



### ② 世帯類型別



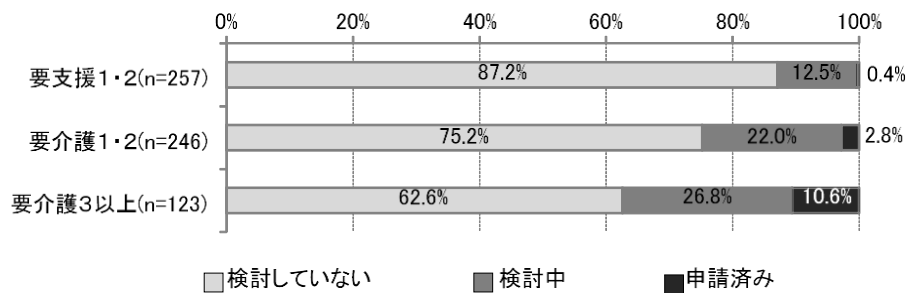
### (11)施設入所の検討状況

要介護度別にみると、介護度の重度化に伴い、「検討中」「申請済み」の割合が高くなっており、「要介護3以上」では「検討中」「申請済み」を合わせた割合は4割を超えている。

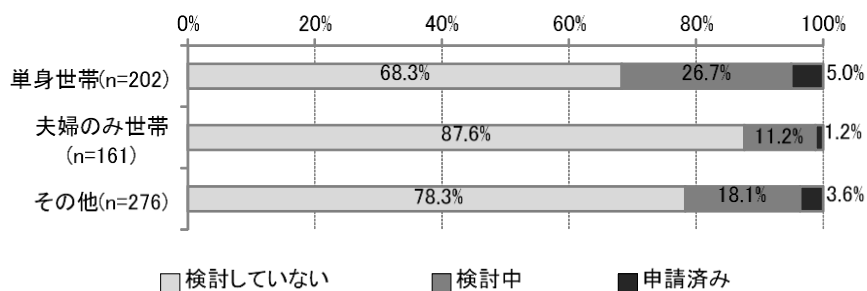
世帯類型別に見ると、「検討している」「申請済み」の割合が最も高いのは「単身世帯」で、3割を超えている。

一方、「夫婦のみの世帯」では「検討していない」が87.6%と最も多く、他の世帯類型と比べて、在宅生活の維持への希望が特に強いことが伺える。

#### ①要介護度別

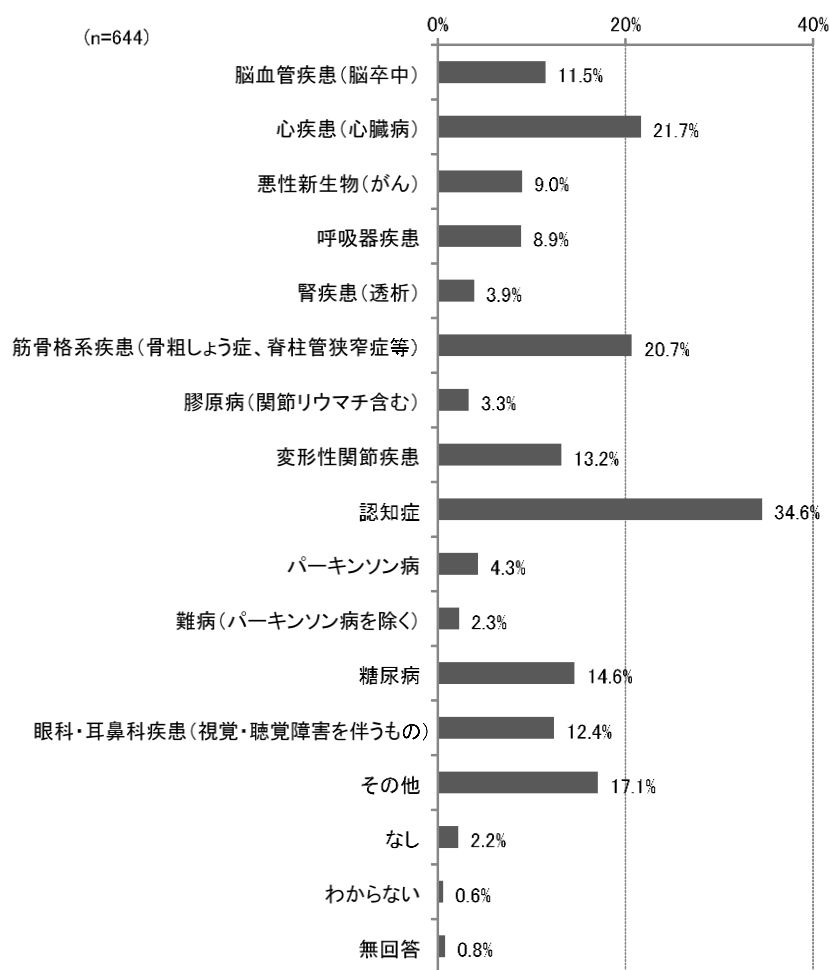


#### ②世帯類型別



## (12) 本人が抱えている傷病

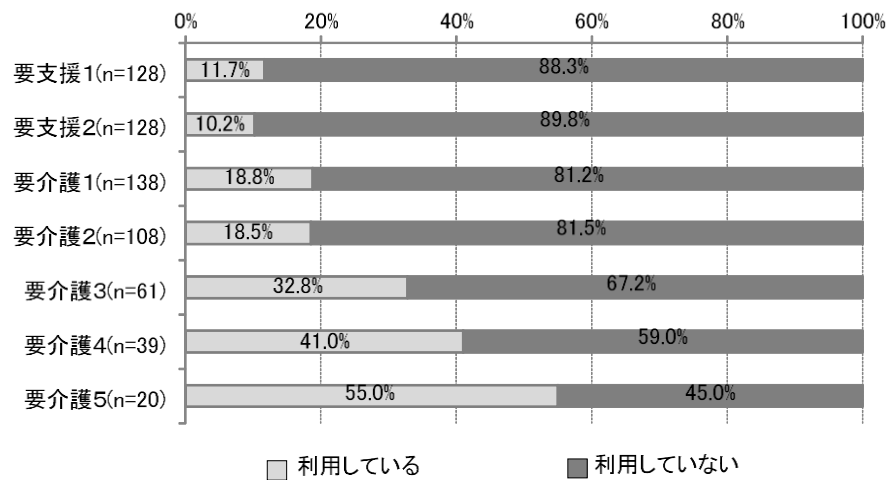
「認知症」が34.6%で最も多く、心疾患(心臓病)が21.7%、筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等)20.7%となっている。





### (13) 訪問診療の利用の有無

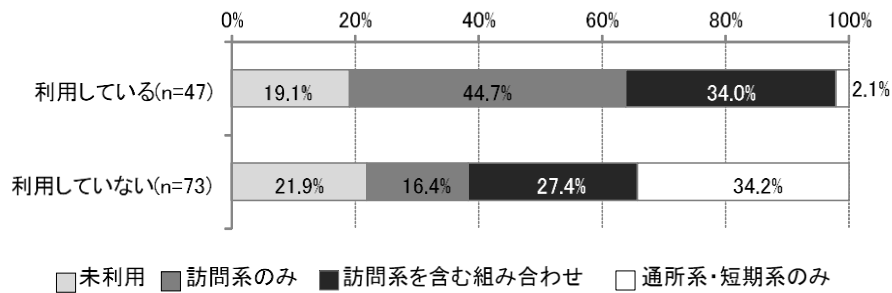
訪問診療を「利用している」割合は、要介護度が重くなるにつれて高くなり、「要介護3」で3割、「要介護5」では5割を超えている。



#### (13)-1 訪問診療の利用の有無とサービス利用の組み合わせ (要介護3以上)

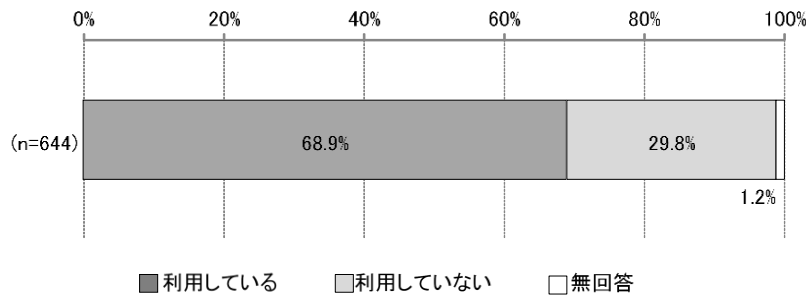
訪問診療を「利用している」層では、「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」が多く、「通所系・短期系」サービスを利用している割合は少ないが、訪問診療を「利用していない」層では、約3割が「通所系・短期系」の介護サービスを利用している。

今後、要介護度の高い在宅生活者が増えていくと、「訪問診療」と併せて、「訪問系」のサービスのニーズも増加していくことが推測できる。



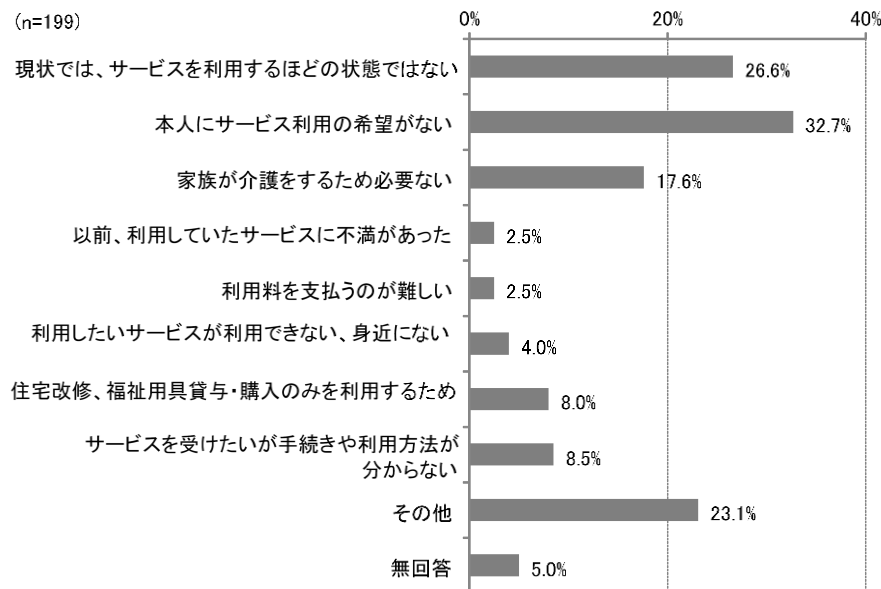
#### (14) 介護保険サービスの利用の有無

介護サービスを「利用している」は68.9%で約7割となっている。



#### (15) 介護保険サービス未利用の理由

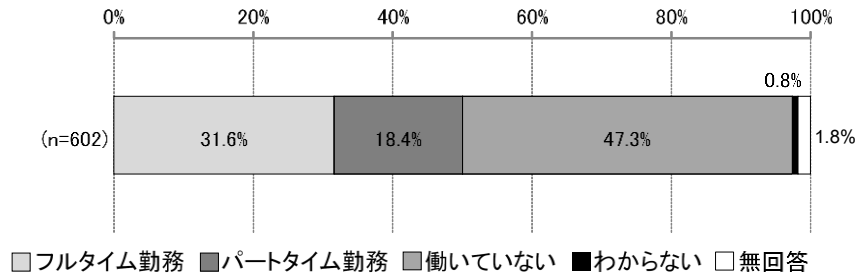
「本人にサービス利用の希望がない」が32.7%と最も多く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が26.6%となっている。



## 2 主な介護者の就労状況（B票）

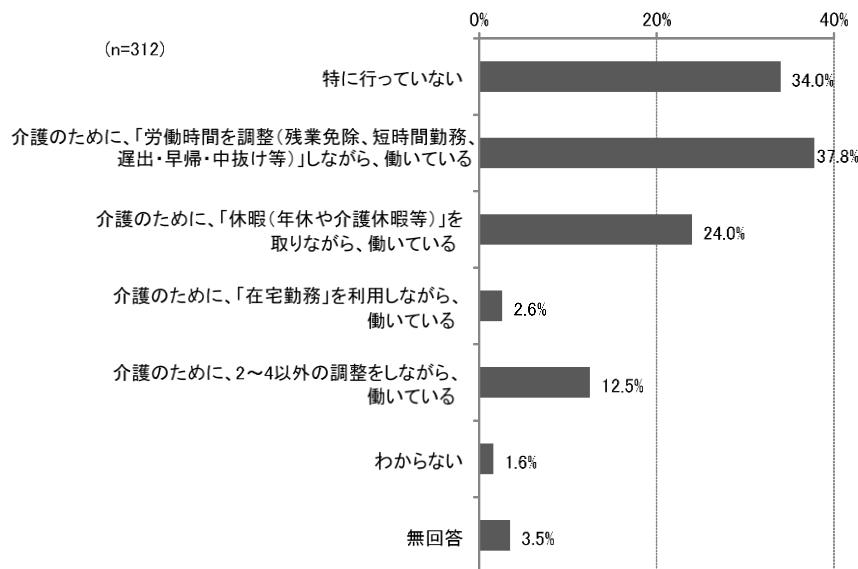
### (1) 主な介護者の就労の有無・勤務形態

「フルタイム勤務」が31.6%、「パートタイム勤務」が18.4%で、就労している人は50.0%と半数である。



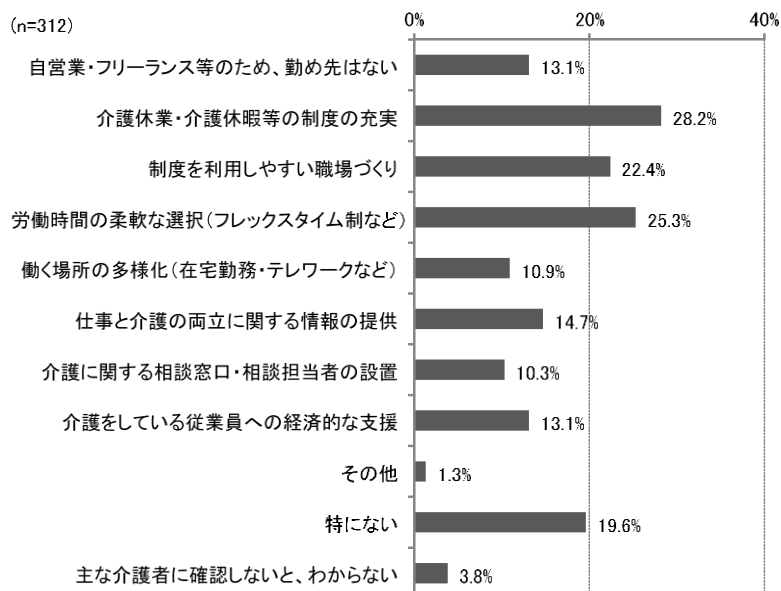
### (2) 働き方の調整の状況

「労働時間を調整」が37.8%と最も多く、次いで「特に行っていない」が34.0%となっている。



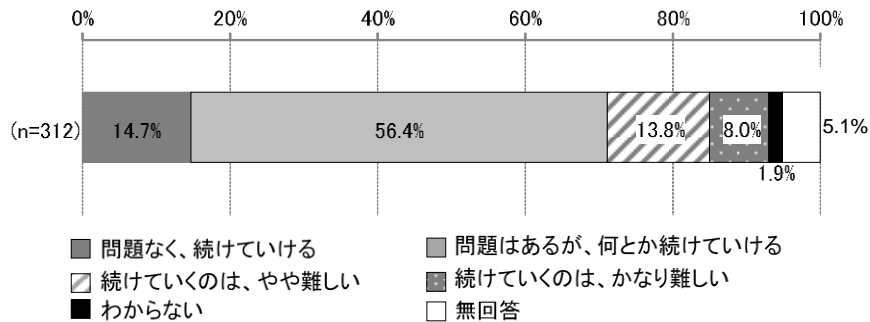
### (3) 就労の継続に向けて効果的な勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が28.2%、「労働時間の柔軟な選択」が25.3%と多い。



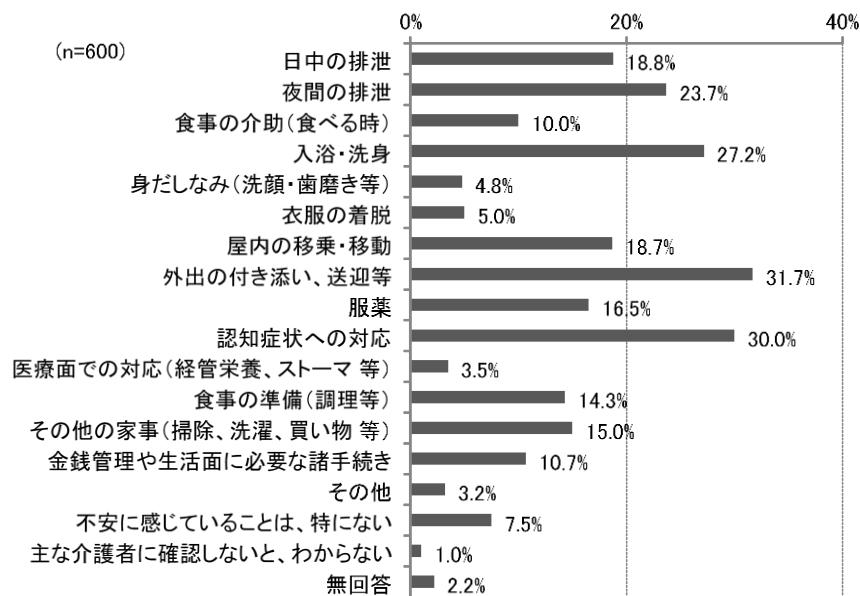
#### (4) 就労継続の見込み

「問題はあるが、何とか続けていける」が56.4%と最も多く、半数を超えている。継続に困難を感じている「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は21.8%で2割を超えている。



#### (5) 今後の在宅生活の継続に向けて、不安を感じる介護

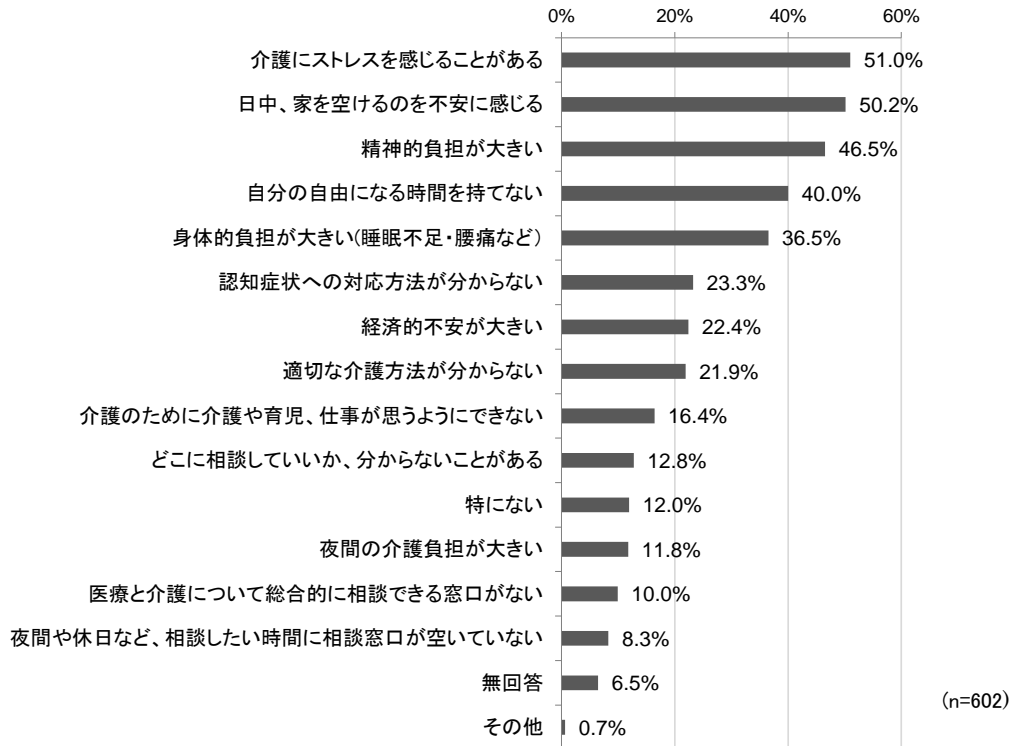
「外出の付き添い、送迎等」が31.7%で最も多く、「認知症状への対応」30.0%、「入浴・洗身」27.2%が続いている。



## (6) 介護をするうえで困っていること

主な介護者が困っていることでは、「介護にストレスを感じることもある」「日中、家を空けるのを不安に感じる」がそれぞれ約5割、「精神的負担が大きい」が46.5%の順で多くなっている。

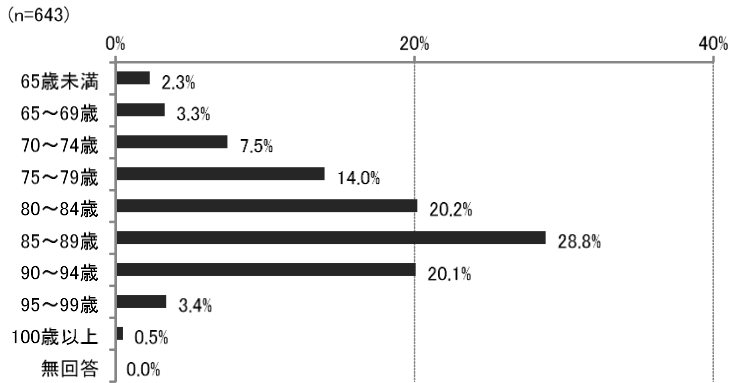
「認知症状への対応方法が分からない」「適切な介護方法が分からない」といった介護方法に関する知識についてもそれぞれ2割、「相談窓口が分からない」も約1割となっている。



### 3 介護保険認定データ

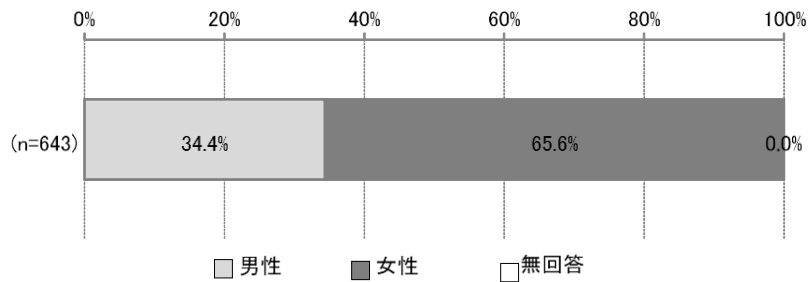
#### (1) 年齢

要介護者本人の年齢は、「85～89歳」が28.8%と最も多く、次いで「80～84歳」が20.2%となっている。75歳以上の後期高齢者は87.0%を占めている。



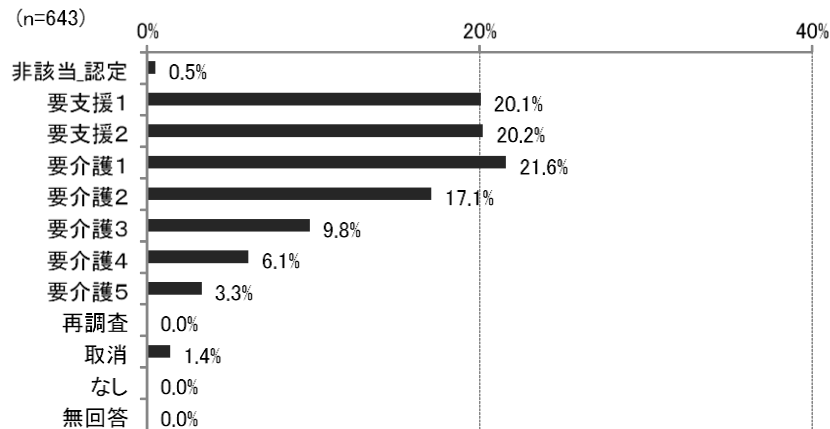
#### (2) 性別

要介護者本人の性別は、「女性」が65.6%で「男性」34.4%のほぼ2倍となっている。



#### (3) 要介護度(二次判定結果)

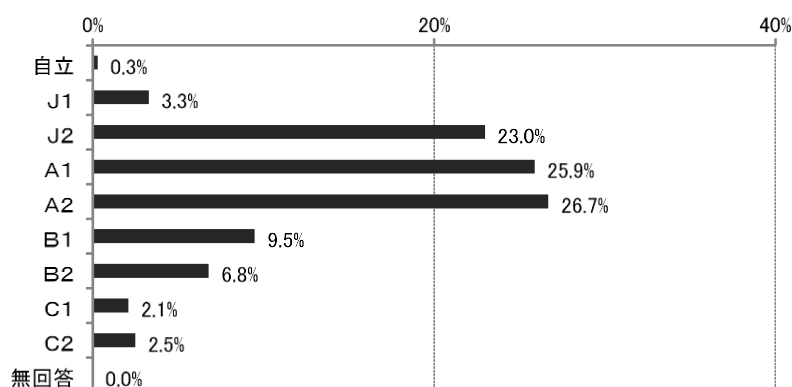
「要介護1」21.6%、「要支援2」20.2%の順に多く、「要介護3」以上の重度者は19.2%である。



#### (4) 障がい高齢者の日常生活自立度

「A2」が26.7%、「A1」25.9%、「J2」23.0%が多く、それぞれ2割を超えている。  
B及びCランク(寝たきり)の合計は20.9%となっている。

(n=634)



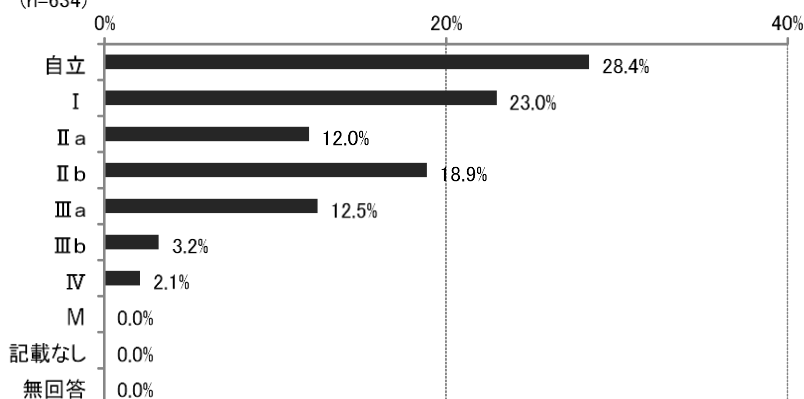
#### <障がい高齢者の日常生活自立度>

用語	説明
J	何らかの障がい等を有するが、日常生活はほぼ自立しており独力で外出する。
	J1 交通機関等を利用して外出する。
	J2 隣近所へなら外出する。
A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない。
	A1 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する。 A2 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている。
B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ。
	B1 車いすに移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行く。 B2 介助により車いすに移乗する。
C	1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する。
	C1 自力で寝返りをうつ。 C2 自力では寝返りも出来ない。

#### (5) 認知症高齢者の日常生活自立度

「自立」28.4%、「I」23.0%、「IIb」18.9%の順で多く、「IIIa」以上は、全体の17.8%である。

(n=634)



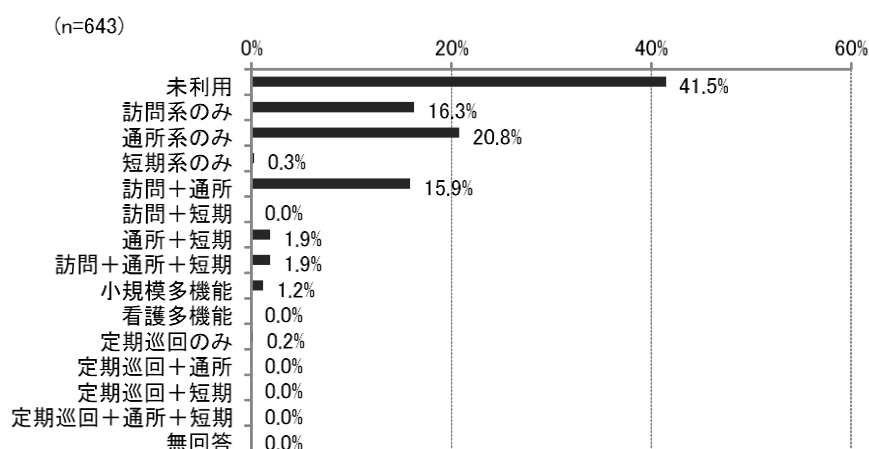
#### <認知症高齢者の日常生活自立度>

用語	説明
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内および社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。 II b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。
III	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。 III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。
IV	日常生活に支障をきたすような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは驚愕な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。

## (6) サービス利用の組み合わせ

サービス利用では「通所系のみ」が20.8%と最も多く、次いで「訪問系のみ」16.3%、「訪問+通所」15.9%となっている。

地域密着型サービスである「小規模多機能」は1.2%、「定期巡回」は0.2%である。

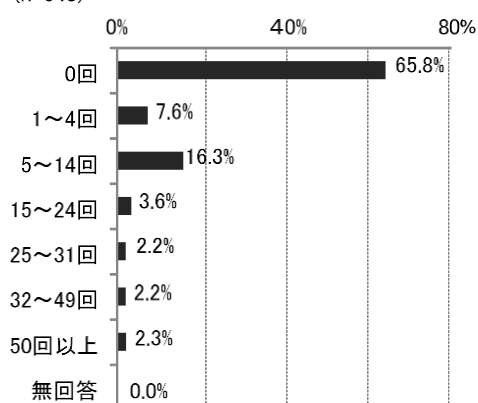


## (7) 介護サービスの利用回数(月合計)

### ① 訪問系サービス

「0回」が65.8%であるが、利用者の中では「5~14回」が16.3%と最も多い。

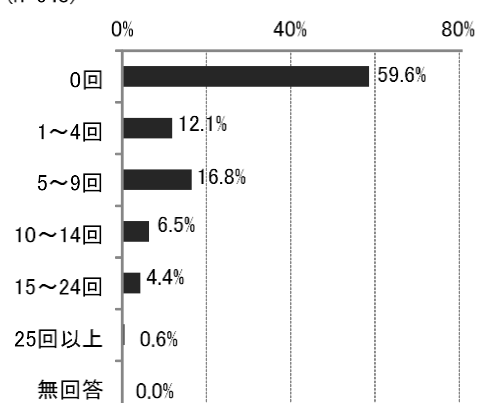
(n=643)



### ② 通所系サービス

「0回」が59.6%であるが、利用者の中では「5~9回」が16.8%と最も多い。

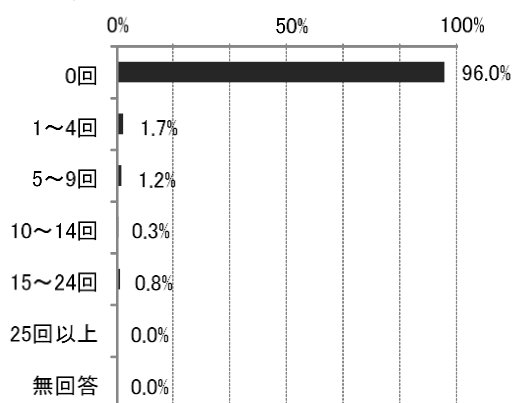
(n=643)



### ③ 短期系サービスの合計利用回数

「0回」が96.0%を占めており、利用者の中で最も多いのは「1~4回」1.7%となっている。

(n=643)





## 4. 検討テーマ別の分析結果

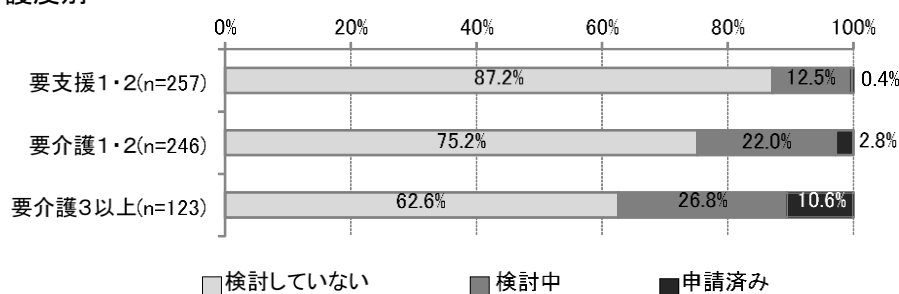
### □ 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

#### (1) 施設入所の検討状況

要介護度別に見ると、介護度の重度化に伴い、「検討中」「申請済み」の割合が高くなっている。

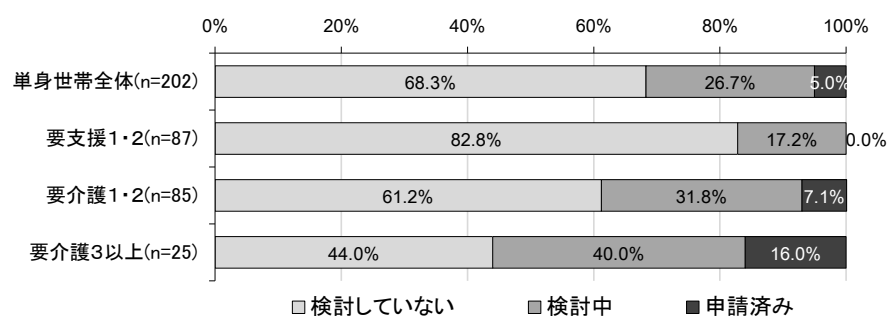
世帯類型別に見ても、重度化に伴って「検討している」「申請済み」の割合が高くなるが、「単身世帯」、「その他」世帯に比べて、「夫婦のみ世帯」では増加が緩やかであり、「要介護3以上」でも約9割弱が施設への入所を「検討していない」。

#### ① 要介護度別

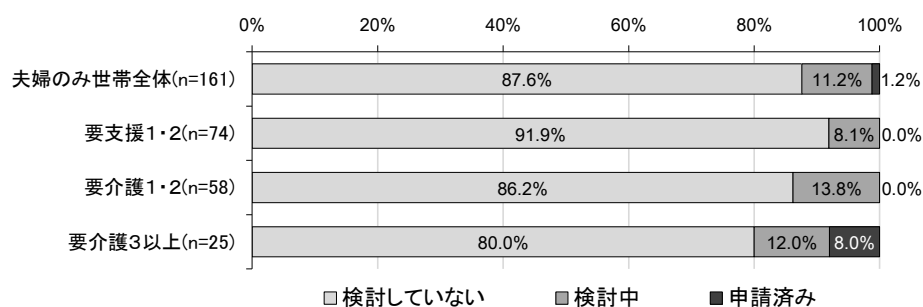


#### ② 世帯類型別

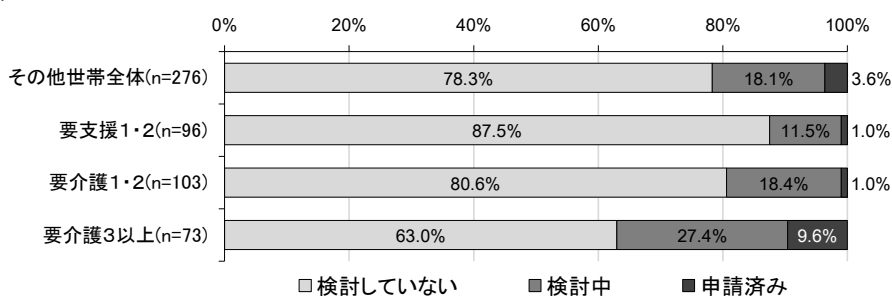
##### < 単身世帯 >



##### < 夫婦のみ世帯 >



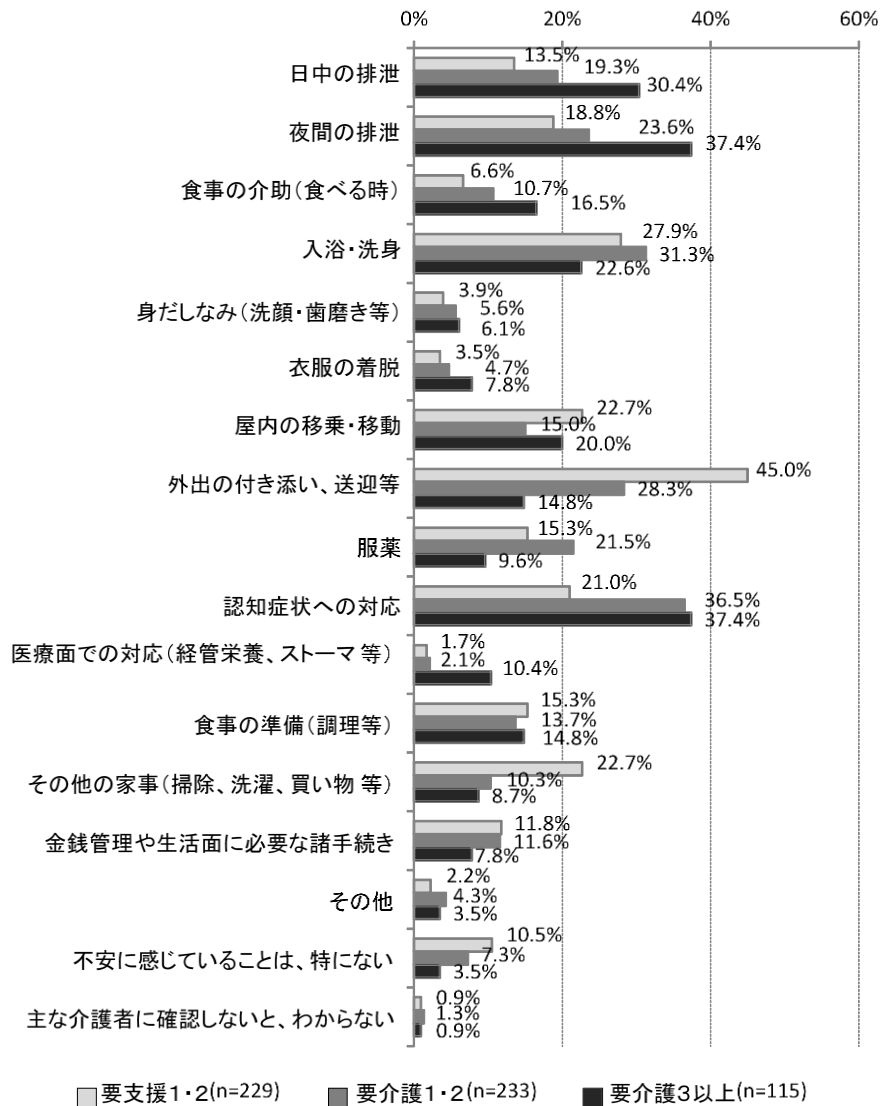
##### < その他の世帯 >



## (2) 介護者が不安に感じる介護(複数回答)

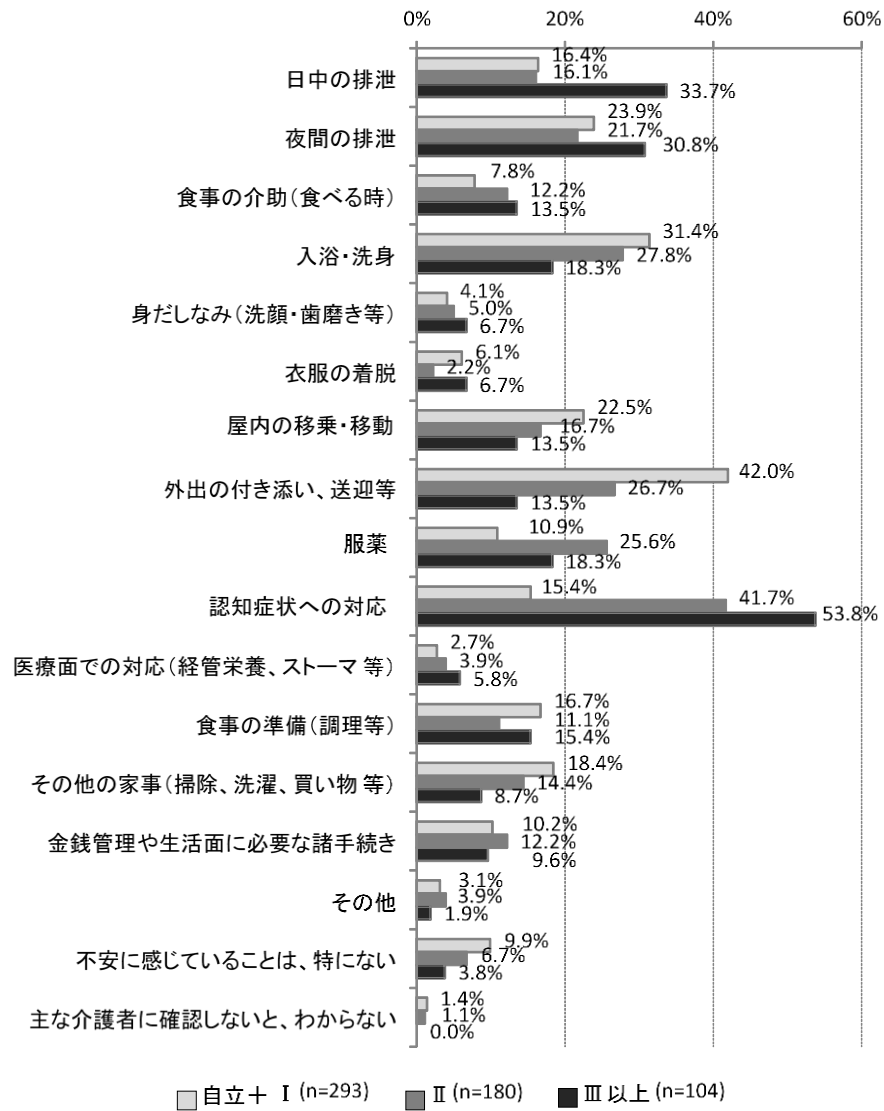
要介護度別に見ると、「要支援1・2」では「外出の付き添い、送迎等」、「要介護1・2」では「認知症状への対応」「入浴・洗身」が多い。「要介護3以上」では「認知症状への対応」に加えて、「日中の排泄」「夜間の排泄」への不安が高くなっている。

### ① 要介護度別



## ②認知症自立度別

認知症自立度別の介護者が不安を感じる介護では、重度化に伴って「認知症状への対応」の増加が顕著である。

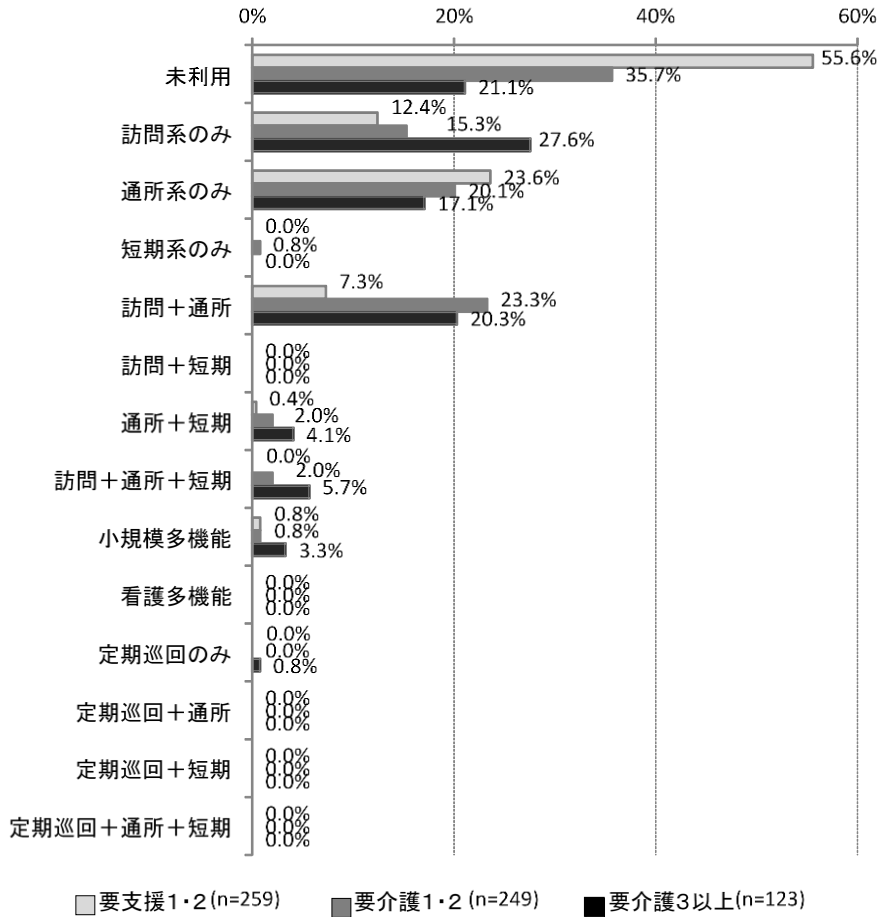


### (3) サービス利用の組み合わせ

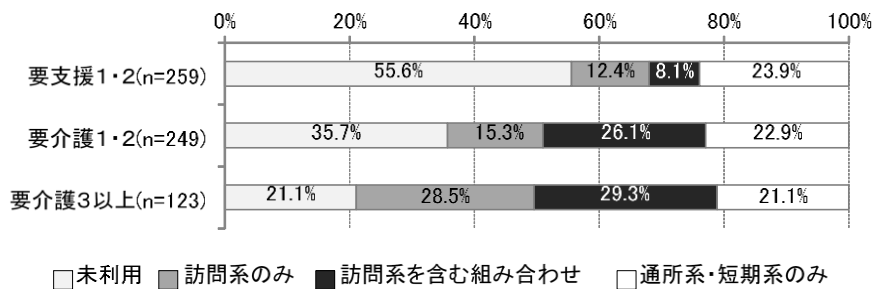
要介護度別に見ると、「要支援1・2」では「通所のみ」の割合が高く、「要介護1・2」では「訪問＋通所」の利用が最も多い。

「要介護3以上」では「訪問系のみ」が最も多く、「短期」「小規模多機能」の利用もやや増えている。要介護度が上がるにつれて「訪問のみ」の利用が伸びており、逆に「通所のみ」は減少している。

#### ① 要介護度別



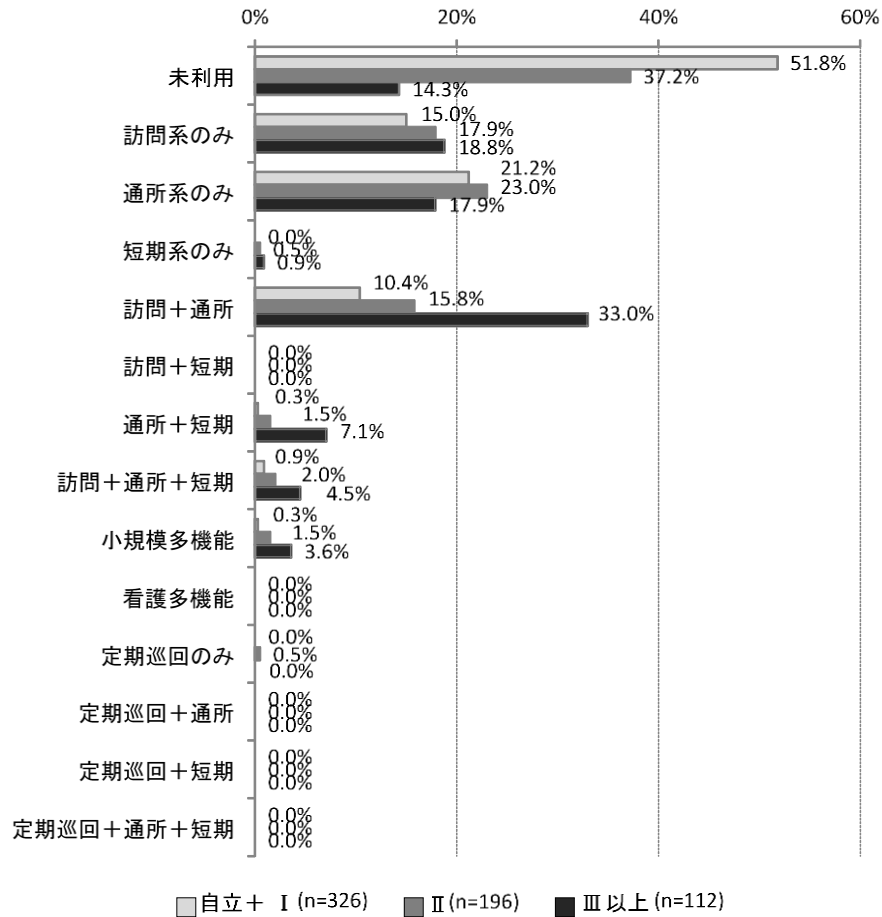
サービス利用の状況を「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の3つに簡略化して比較すると、介護度が上がるにつれて「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」が増えていることが分かる。



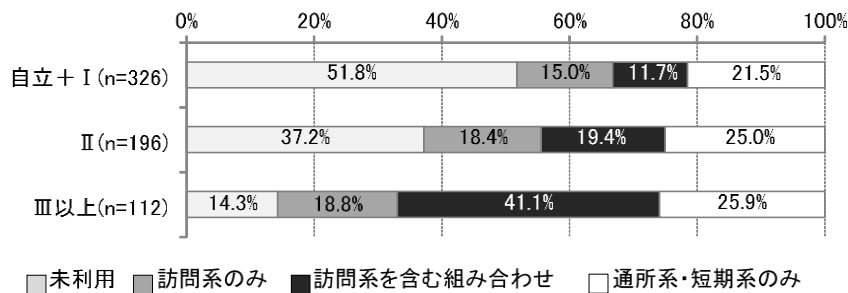
## ②認知症自立度別

認知症自立度別に見ても、重症化に伴って、「訪問系のみ」、「訪問+通所」の利用が増えているが、特にⅢ以上になると「訪問+通所」の利用増が顕著である。

また、Ⅲ以上では「短期」を含む組み合わせや「小規模多機能」の利用も増えている。



サービス利用の状況を「訪問系のみ」「訪問系を含む組み合わせ」「通所系・短期系のみ」の3つに簡略化して比較すると、要介護度別と同様、重症化に伴って「訪問系のみ」と「訪問系を含む組み合わせ」が増えているが、特に「訪問系を含む組み合わせ」の伸びが大きい。



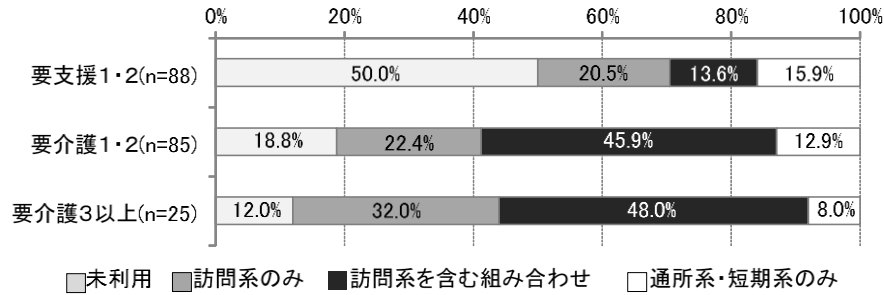
### ③世帯類型別

サービス利用の組み合わせを世帯類型別に見ると、「単身世帯」では「通所系・短期系のみ」の割合が低く、「要介護3以上」になると、「訪問系を含む組み合わせ」が約5割を占めている。

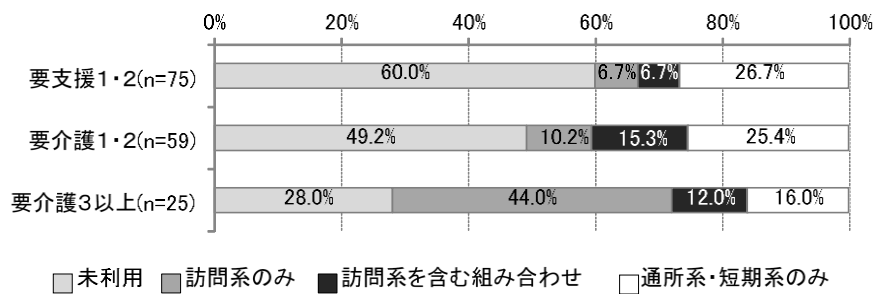
「夫婦のみ世帯」では、要介護度が上がるにつれて「訪問系のみ」の利用が増え、「要介護3以上」では4割を超えている。

「その他の世帯」では、「要介護3以上」になっても「通所系・短期系のみ」の利用が3割弱あり、家族介護者が休息や負担軽減を必要としている状況が読み取れる。

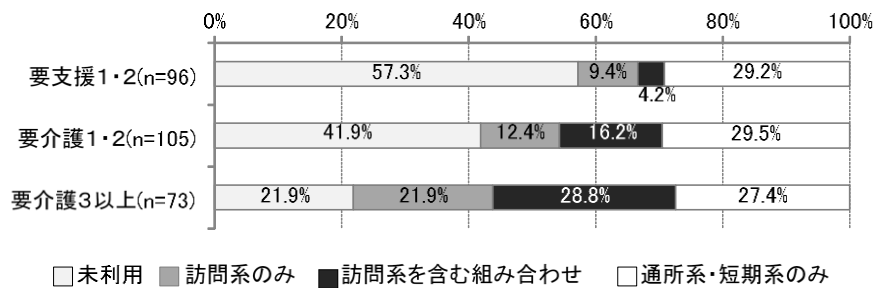
#### <単身世帯>



#### <夫婦のみ世帯>



#### <その他の世帯>

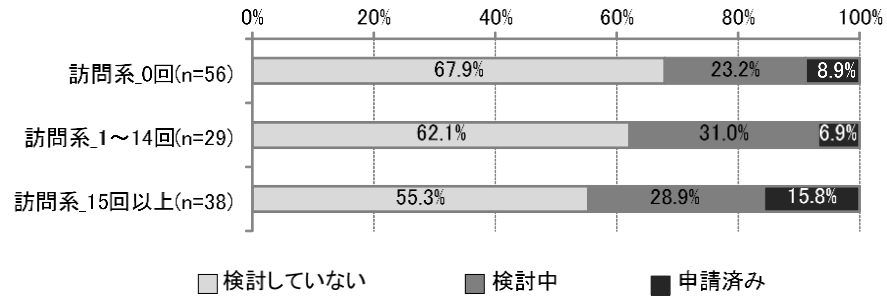


#### (4) サービス利用回数と施設入所の検討状況（要介護3以上）

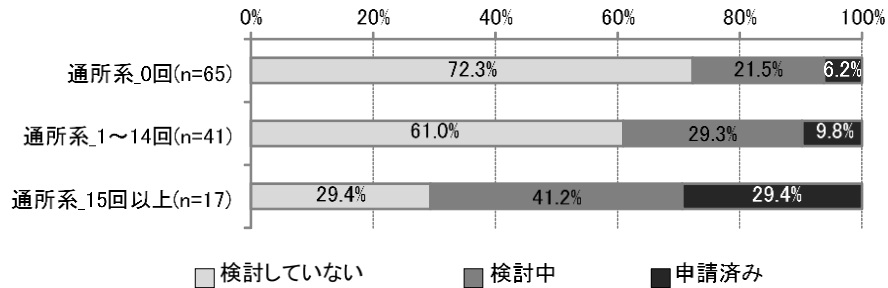
介護サービスの利用回数と施設入所の検討状況の関係をみると、利用回数が多いほど「検討中」「申請済み」の割合が高くなっている。

サービスの種類別に見ると、「通所系」「短期系」で「申請済み」の割合が高い。

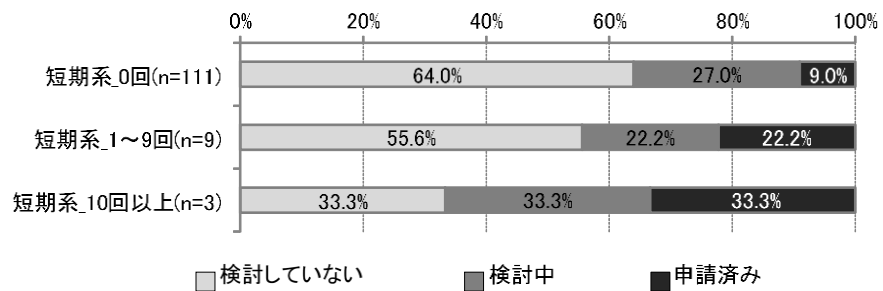
##### ① 訪問系サービス



##### ② 通所系サービス



##### ③ 短期系サービス

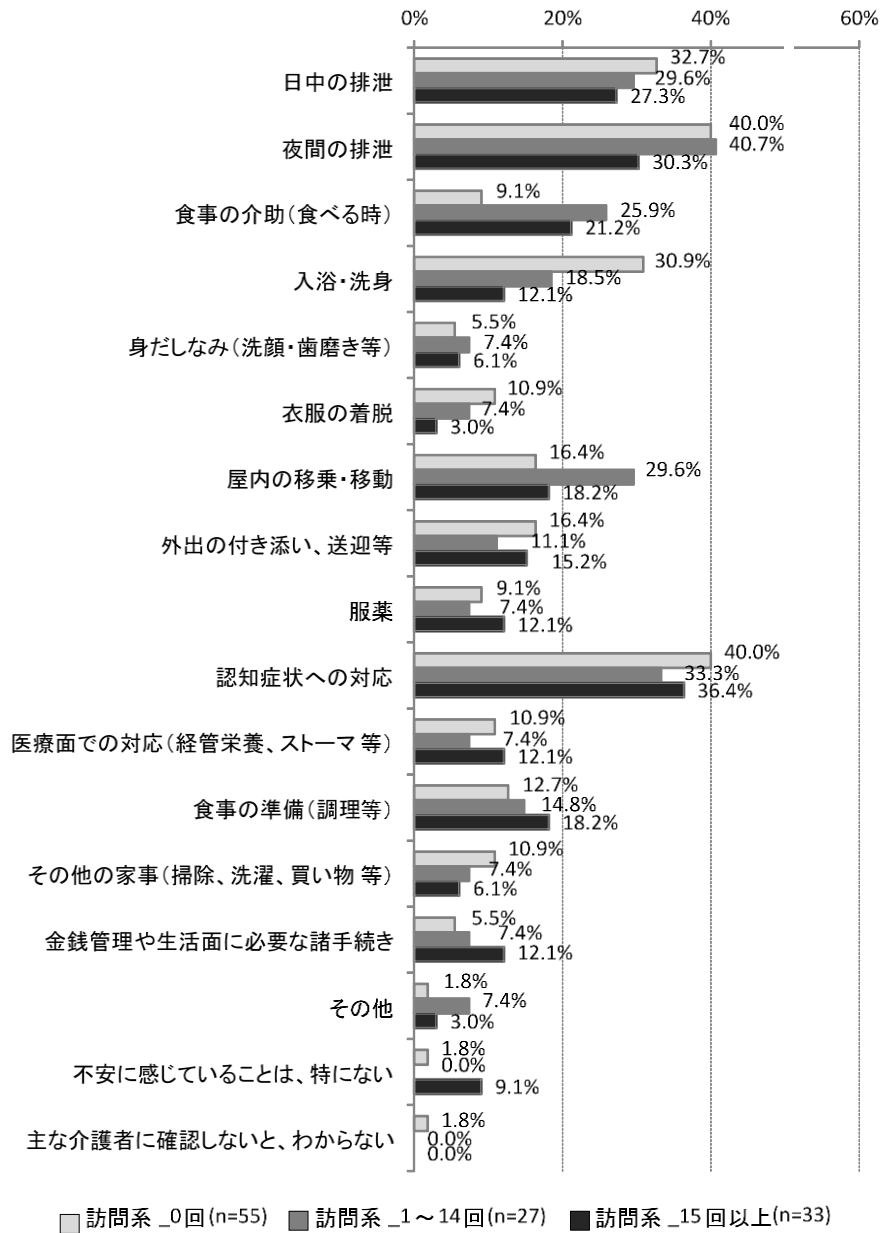


(5) サービス利用回数と介護者が不安に感じる介護（要介護3以上）

要介護3以上の「サービスの利用回数」と「介護者が不安に感じる介護」の関係を見ると、訪問サービスでは利用回数の増加とともに、「認知症状への対応」「(日中、夜間の)排泄」において介護者の不安が軽減する傾向が見られた。

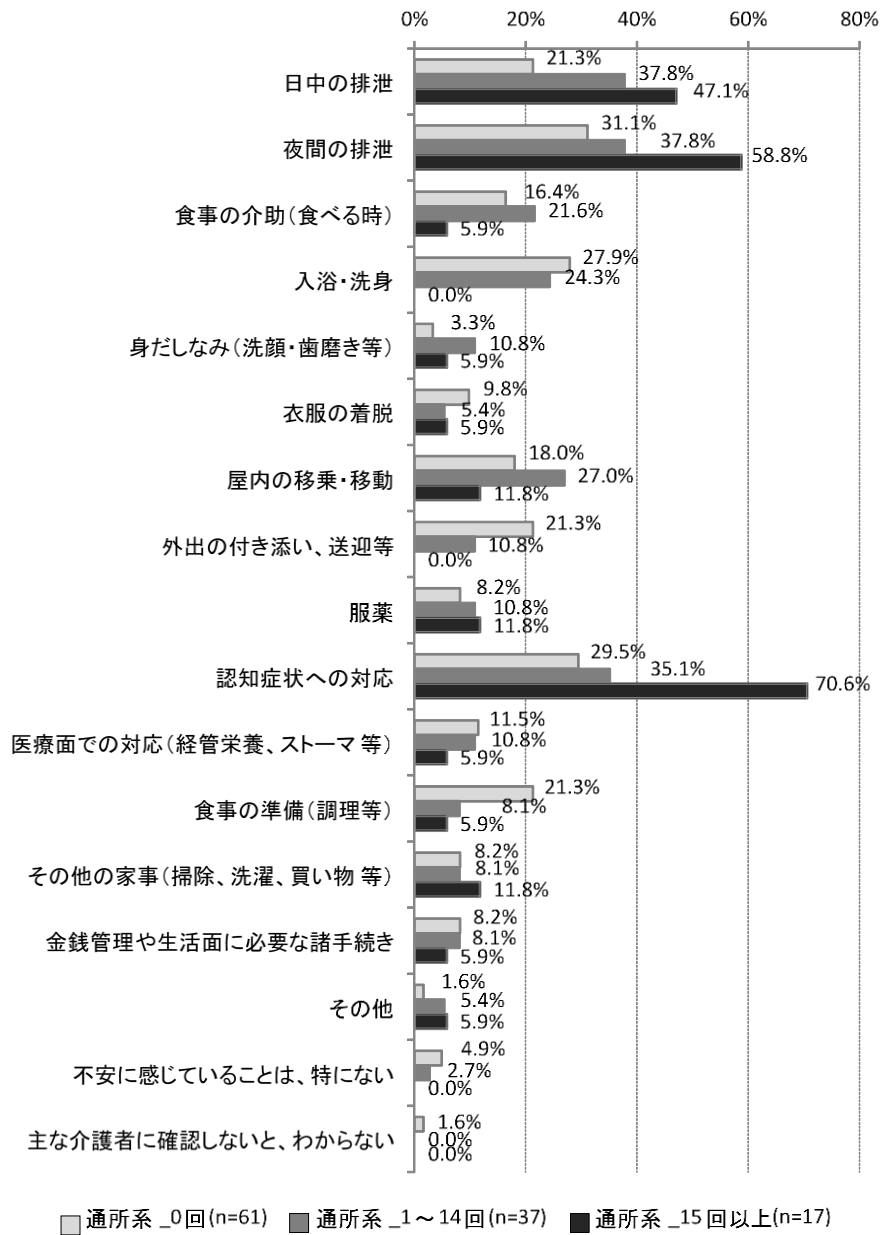
一方、「通所系」「短期系」では利用回数が多いほど、不安に感じる割合が高くなっている。

①訪問系サービス

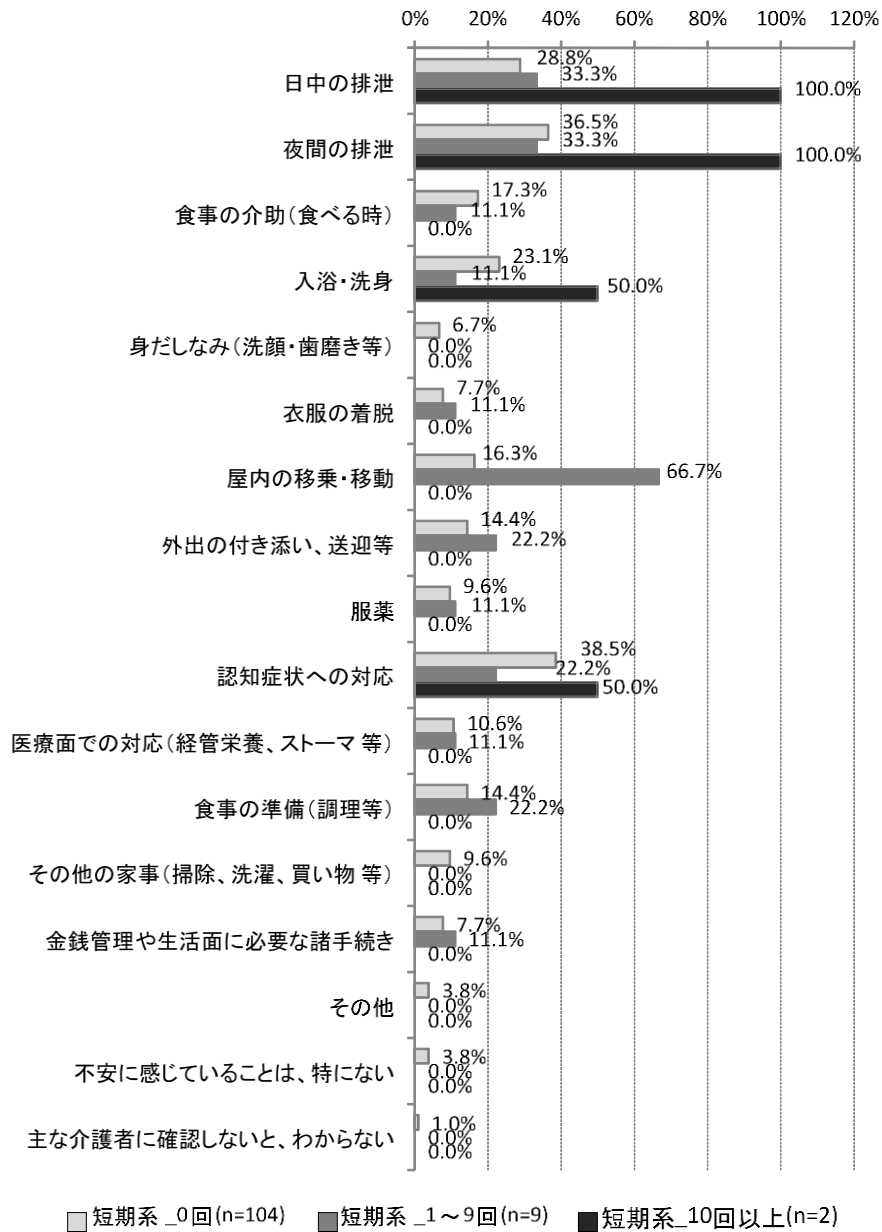




## ②通所系サービス



### ③短期系サービス

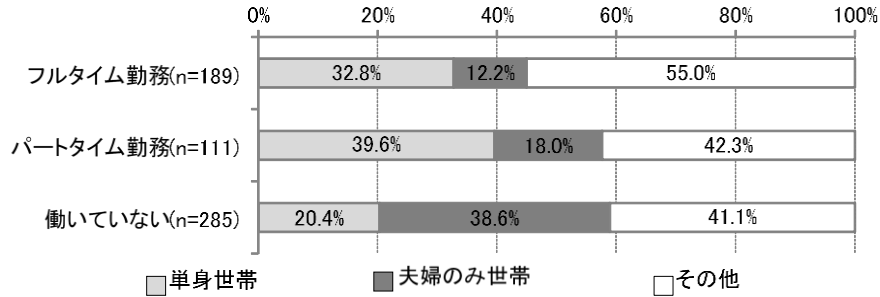


## ② 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制

### (1) 就労状況別 主な介護者の状況

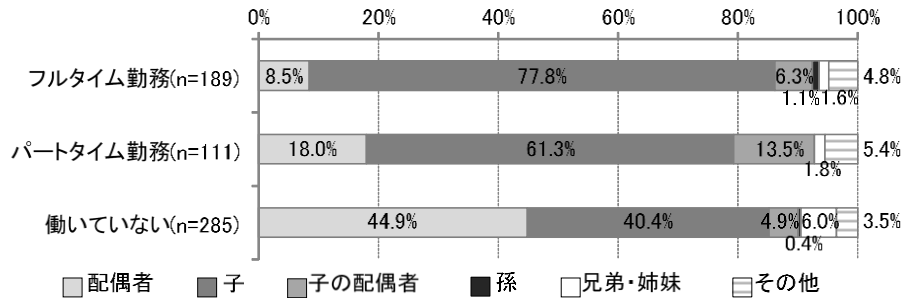
#### ① 世帯状況

主な介護者が「フルタイム勤務」では「その他の世帯」が多く、「働いていない」では「夫婦のみ世帯」の割合が相対的に高い。



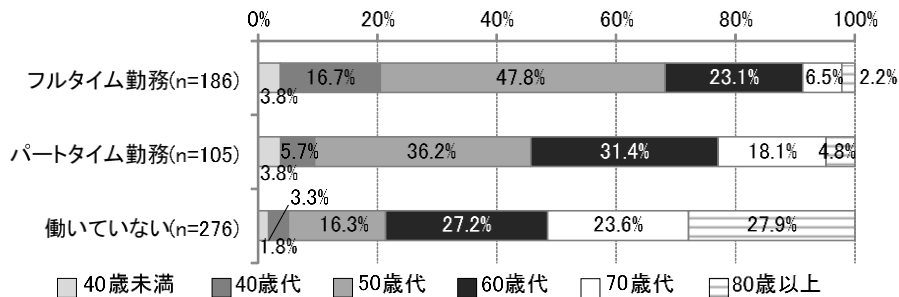
#### ② 本人との関係

主な介護者と本人の関係は、「フルタイム勤務」または「パートタイム勤務」の場合は「子」が最も多く、特に「フルタイム勤務」では7割以上を占めている。介護者が「働いていない」では「配偶者」と「子」が半々となっている。



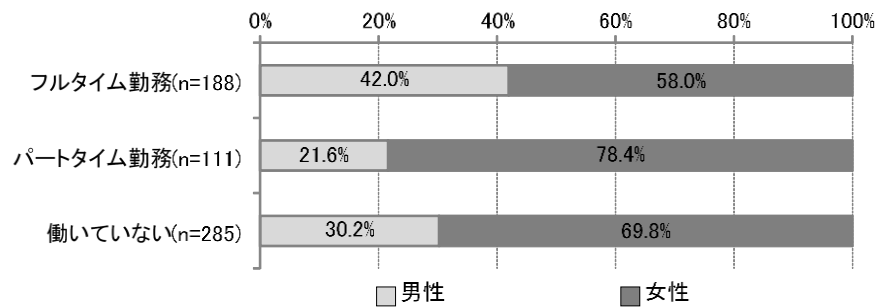
#### ③ 年齢

主な介護者の年齢は、「フルタイム勤務」では「50歳代」が47.8%と約半数を占め、「働いていない」では「80歳以上」が27.9%と最も多い。



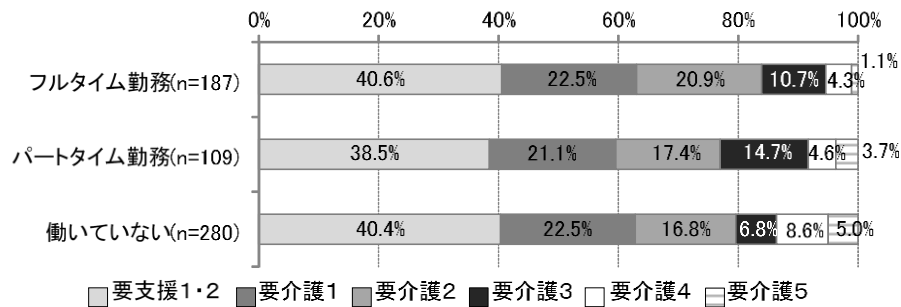
#### ④男女別

いずれの就労状況でも女性が多く、特に「パートタイム勤務」では約8割となっている。男性の割合は「フルタイム勤務」が最も高い。



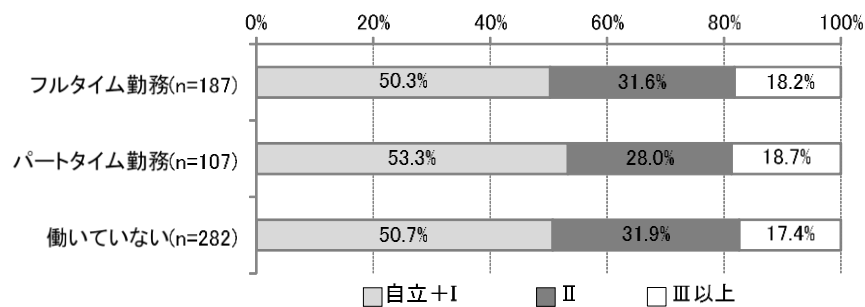
#### ⑤介護している本人の要介護度

「要介護3」以上の方を介護している割合は「パートタイム勤務」がやや高い。



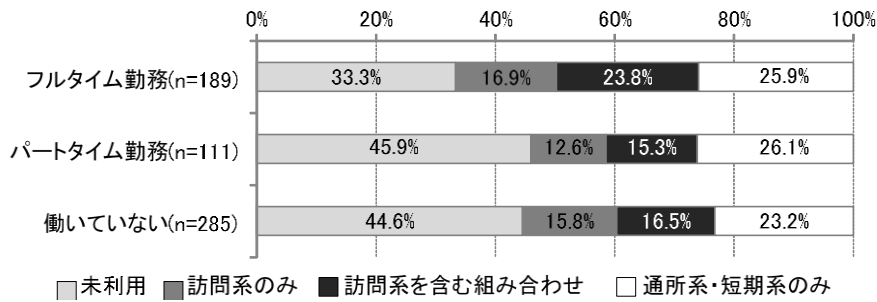
#### ⑥介護している本人の認知症自立度

いずれの就労状況でも「自立+I」が約5割、「II」が約3割、「III以上」が2割弱で大きな差は見られない。



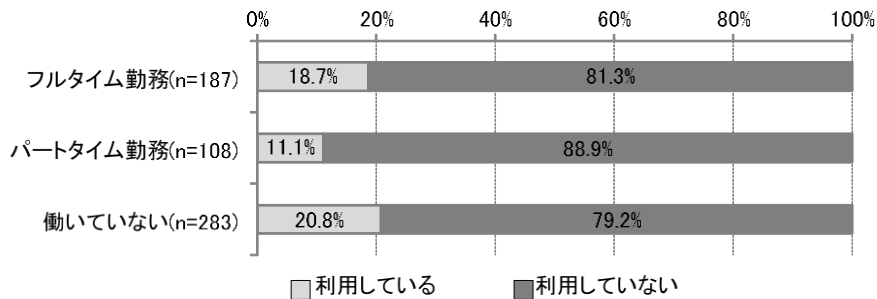
### ⑦ サービス利用の組み合わせ

いずれの就労状況でも「通所系・短期系のみ」の利用が25%前後で最も多い。「フルタイム勤務」で「訪問を含む組み合わせ」がやや多くなっている。



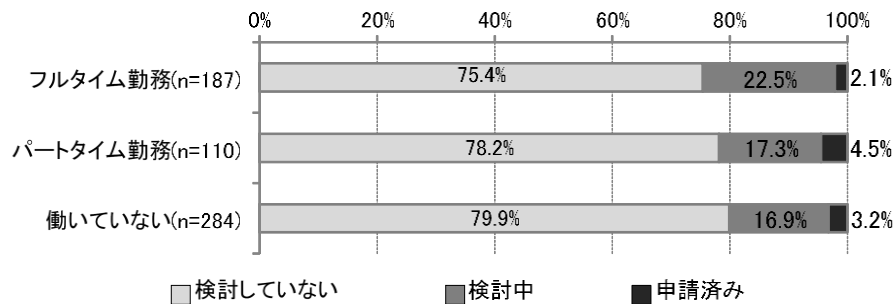
### ⑧ 訪問診療の利用

「利用している」割合は「働いていない」「フルタイム勤務」が約2割、「パートタイム勤務」は1割となっている。



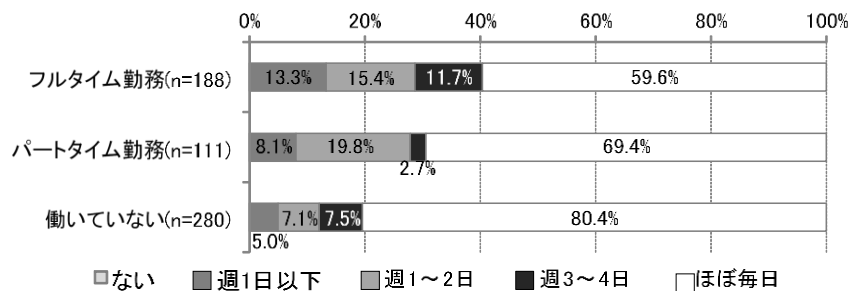
### ⑨ 施設入所の検討状況

「検討中」「申請済み」を合わせた割合は「フルタイム勤務」がやや高く、「申請済み」は「パートタイム勤務」でやや高い。



### ⑩ 介護の頻度

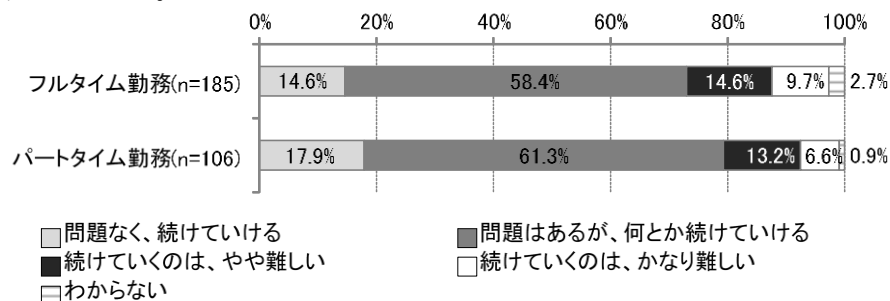
「働いていない」の介護頻度がもっとも多いが、「フルタイム勤務」でも「ほぼ毎日」が約6割となっている。



## (2) 就労継続の見込み

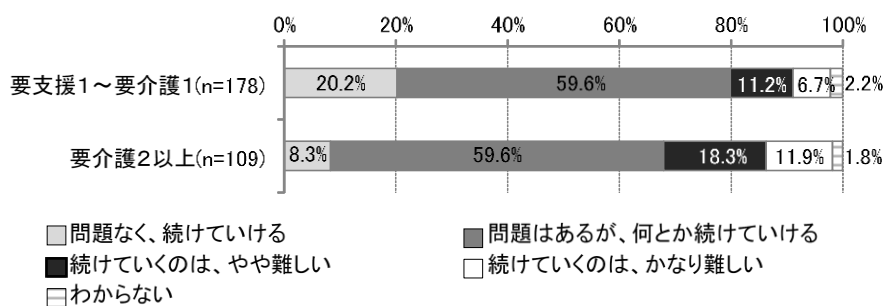
### ① 就労状況別

「続けていくのはやや難しい」「かなり難しい」を合わせた割合は「フルタイム勤務」では 24.3%、「パートタイム勤務」では 19.8%となっており、「フルタイム勤務」の方が就労と介護の両立に困難を感じている割合が高くなっている。



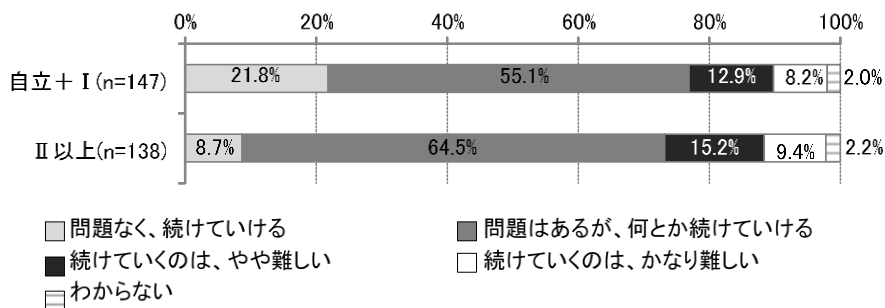
### ② 要介護度別(フルタイム勤務+パートタイム勤務) 就労継続の見込み

要介護度が重くなると、「続けていくのはやや難しい」「かなり難しい」の割合が高くなっている。



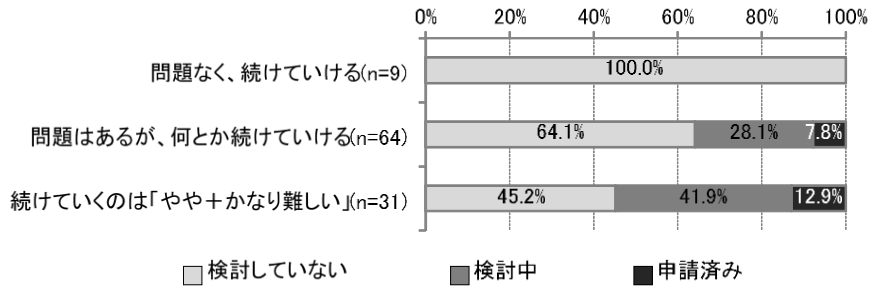
### ③ 認知症自立度別(フルタイム勤務+パートタイム勤務)

要介護度別同様、認知症状が重くなると「続けていくのは、やや難しい」「かなり難しい」の割合が高くなっている。



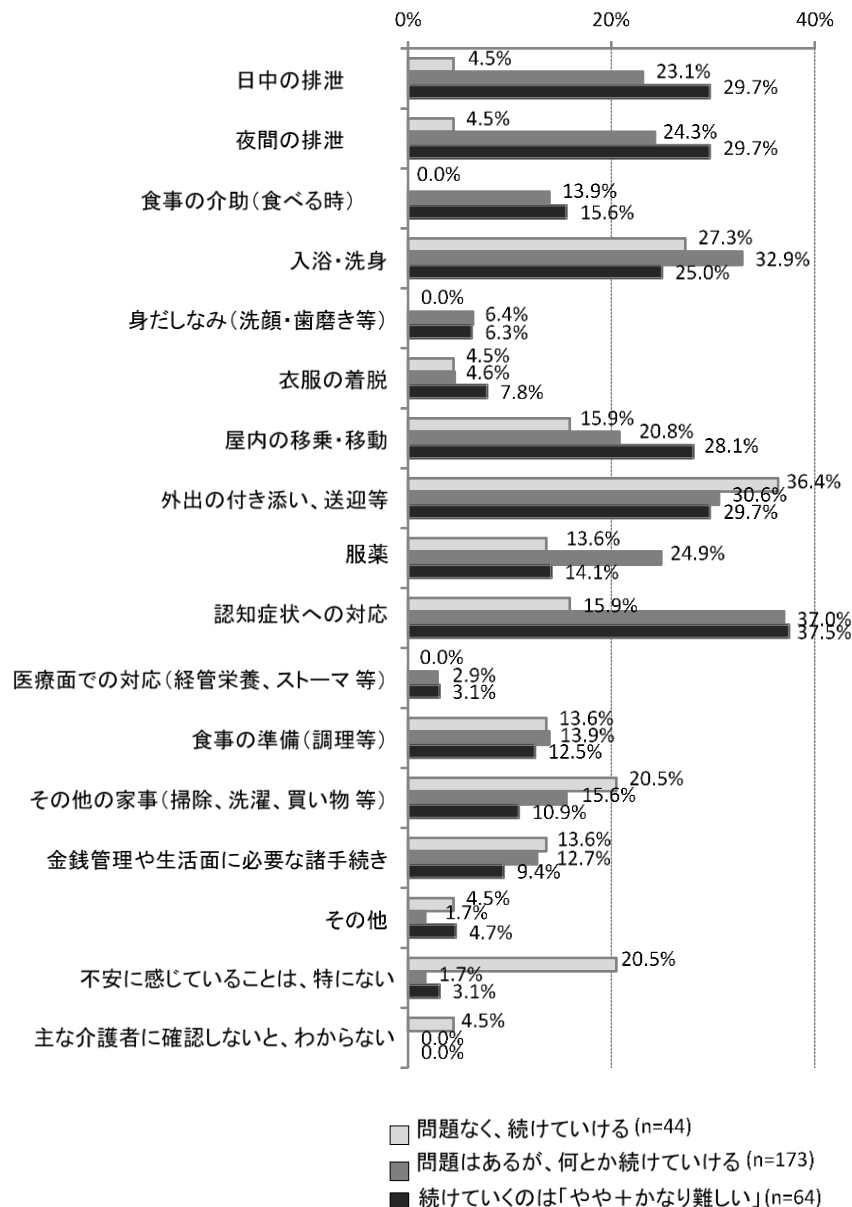
#### ④就労継続見込み別・施設入所の検討状況

「続けていくのは「やや＋かなり難しい」層では「検討中」「申請済み」を合わせた割合が5割を超えている。



#### ⑤就労継続見込別 介護者が不安に感じる介護

就労継続見込別に不安に感じる介護を見ると、「問題はあるが何とか続けていける」層では「認知症状への対応」が37.0%、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」もそれぞれ約3割と高くなっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」層では、特に「認知症状への対応」、「日中の排泄」「夜間の排泄」の割合が高くなっている。



### ⑥就労状況別 介護をするうえで困っていること

就労状況別に困っていることを見ると、全体と比較して、「フルタイム勤務」では特に「日中、家を空けるのを不安に感じる」割合が高く、「パートタイム勤務」では「経済的不安」を感じている割合が高い。

就労継続の見込み別でみると、「問題はあるが、続けていける」層では、「日中、家を空けるのを不安に感じる」割合が最も高く、「続けていくのはやや難しい」「かなり難しい」層では「介護にストレスを感じることもある」「精神的負担が大きい」が最も多く、介護に対する負担感が大きいことが読み取れる。

#### <就労状況別>

	全体	フルタイム勤務	パートタイム勤務	働いていない
日中、家を空けるのを不安に感じる	49.0	<b>54.7</b>	46.8	48.4
介護にストレスを感じることもある	49.0	46.8	52.3	51.6
精神的負担が大きい	44.7	46.8	39.6	47.0
自分の自由になる時間を持ってない	38.9	37.9	41.4	40.7
身体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛など)	34.6	32.6	26.1	<b>40.7</b>
認知症状への対応方法が分からない	22.6	25.8	21.6	22.1
適切な介護方法が分からない	21.4	19.5	22.5	23.5
経済的不安が大きい	21.1	<b>24.7</b>	<b>27.0</b>	17.5
介護のために介護や育児、仕事が思うようにできない	15.6	<b>20.0</b>	<b>18.9</b>	12.3
どこに相談しているか、分からないことがある	11.6	<b>13.2</b>	9.9	11.9
夜間の介護負担が大きい	11.0	8.9	11.7	<b>12.6</b>
特にない	10.6	8.9	10.8	11.9
医療と介護について総合的に相談できる窓口がない	9.6	<b>11.6</b>	<b>13.5</b>	7.0
休日や休日など相談したい時間に相談窓口が空いていない	8.0	8.9	9.9	7.0
実数(n)	602	190	111	285

#### <就労継続の見込み別>

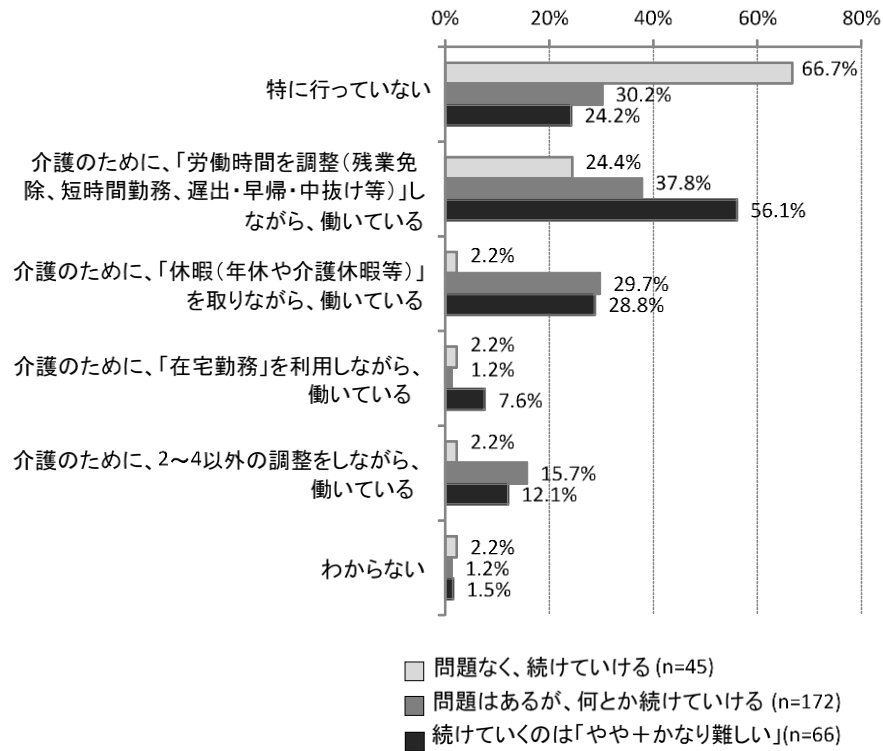
	全体	問題なく 続けていける	問題はあるが 続けていける	続けていくのは やや難しい	続けていくのは かなり難しい
日中、家を空けるのを不安に感じる	49.4	19.6	<b>56.8</b>	67.4	64.0
介護にストレスを感じることもある	47.1	26.1	49.4	<b>72.1</b>	64.0
精神的負担が大きい	42.3	17.4	45.5	58.1	<b>72.0</b>
自分の自由になる時間を持ってない	37.8	15.2	40.3	53.5	64.0
身体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛など)	30.1	6.5	30.1	48.8	64.0
経済的不安が大きい	23.7	8.7	25.0	30.2	48.0
認知症状への対応方法が分からない	22.8	15.2	25.0	27.9	28.0
介護のために介護や育児、仕事が思うようにできない	19.6	2.2	15.9	44.2	48.0
適切な介護方法が分からない	19.2	17.4	19.3	20.9	32.0
医療と介護について総合的に相談できる窓口がない	12.2	10.9	11.9	18.6	16.0
どこに相談しているか、分からないことがある	11.9	4.3	11.4	23.3	20.0
夜間の介護負担が大きい	9.9	0.0	8.5	23.3	24.0
特にない	9.3	<b>32.6</b>	6.3	0.0	4.0
休日や休日など相談したい時間に相談窓口が空いていない	8.7	4.3	8.0	14.0	16.0
実数(n)	46	176	43	25	6



### ⑦就労継続見込別 介護のための働き方の調整

働き方の調整を「特に行っていない」割合は「問題なく、続けていける」層では66.7%であるのに対し、「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」層では24.2%まで下がっており、就労継続を困難だと思っているほど、働き方の調整をしながら介護を行っていることが分かる。

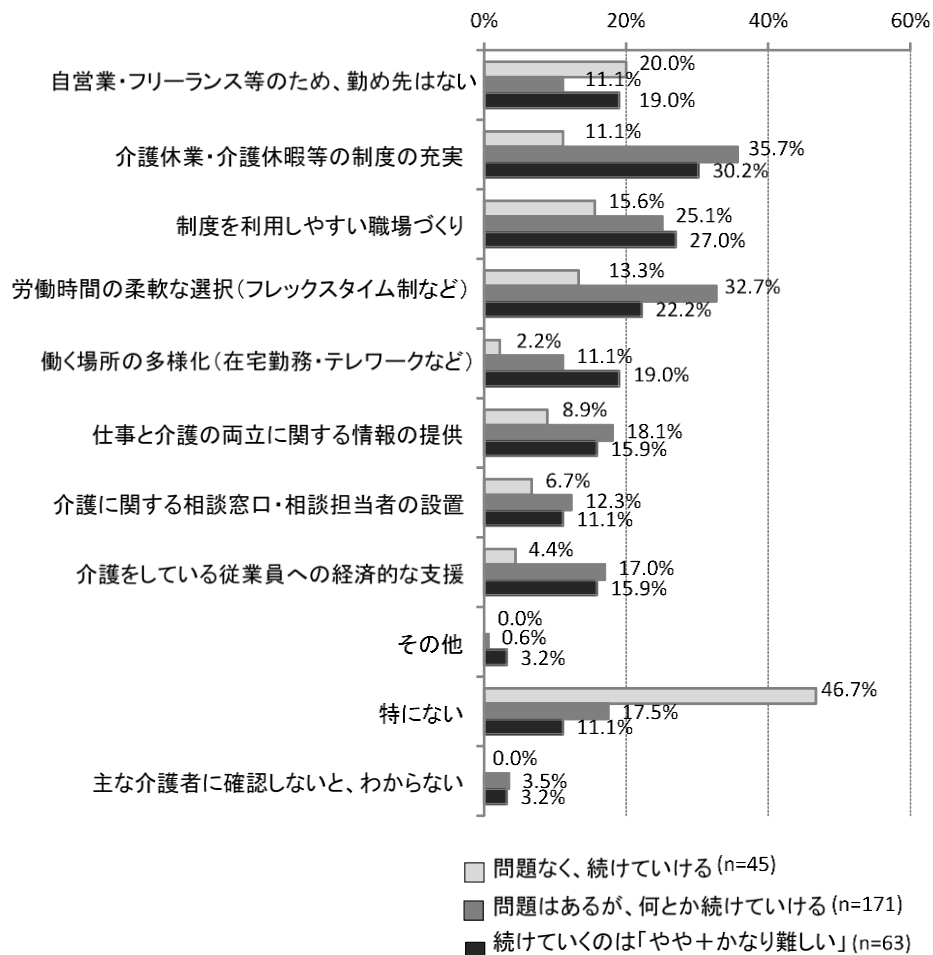
「続けていくのは「やや＋かなり難しい」」層では「労働時間を調整しながら働いている」が56.1%と5割を超えている。



### ⑧効果的な勤め先からの支援

「介護休業・介護休暇等の制度等の充実」「労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)」や「制度を利用しやすい職場づくり」を必要としている割合が高い。

全体として「問題はあるが、何とか続けていける」層で、勤め先からの支援を必要としている割合が高めである。



# 板橋区 在宅介護実態調査 調査票

被保険者番号[ \_\_\_\_\_ ]

## 「在宅介護実態調査」に係る要介護認定データの活用に係る同意書

本日実施した認定調査にかかる要介護認定データ(認定調査、介護認定審査会のデータ)を在宅介護実態調査の結果と組み合わせ、板橋区の介護保険事業及び高齢者施策推進のための基礎資料として使用させていただきます。データは本人が特定されないように統計的に処理し、本人の許可なく、目的以外の使用は致しません。

上記の事項を確認の上、同意します。 年 月 日

ご署名(本人) \_\_\_\_\_

ご署名(代理記入者) \_\_\_\_\_ (ご本人とのご関係: \_\_\_\_\_)

### 【A票の聞き取りを行った相手の方は、どなたですか】(複数選択可)

1. 調査対象者本人
2. 主な介護者となっている家族・親族
3. 主な介護者以外の家族・親族
4. 調査対象者のケアマネジャー
5. その他( \_\_\_\_\_ )

## A票

### 認定調査員が、概況調査等と並行して記載する項目

問1 世帯類型について、ご回答ください(1つを選択)

1. 単身世帯
2. 夫婦のみ世帯
3. その他( \_\_\_\_\_ )

問2 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか(同居していない子どもや親族等からの介護を含む)(1つを選択)

1. ない → 問9(3ページ)へ

2. 家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない
  3. 週に1～2日ある
  4. 週に3～4日ある
  5. ほぼ毎日ある
- 問3へ

問3 主な介護者の方は、どなたですか(1つを選択)

1. 配偶者
2. 子
3. 子の配偶者
4. 孫
5. 兄弟・姉妹
6. その他( \_\_\_\_\_ )



● **ここから再び、全員に調査してください。**

問9 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください(複数選択可)

※総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。

- |                       |             |                   |
|-----------------------|-------------|-------------------|
| 1. 配食                 | 2. 調理       | 3. 掃除・洗濯          |
| 4. 買い物(宅配は含まない)       | 5. ゴミ出し     | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ  | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他( )            | 11. 利用していない |                   |

問 10 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む)について、ご回答ください(複数選択可)

※介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

- |                       |            |                   |
|-----------------------|------------|-------------------|
| 1. 配食                 | 2. 調理      | 3. 掃除・洗濯          |
| 4. 買い物(宅配は含まない)       | 5. ゴミ出し    | 6. 外出同行(通院、買い物など) |
| 7. 移送サービス(介護・福祉タクシー等) | 8. 見守り、声かけ | 9. サロンなどの定期的な通いの場 |
| 10. その他( )            | 11. 特になし   |                   |

問 11 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください(1つを選択)

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、特定施設(有料老人ホーム等)、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

1. 入所・入居は検討していない
2. 入所・入居を検討している
3. すでに入所・入居申し込みをしている

問 12 ご本人(認定調査対象者)が、現在抱えている傷病について、ご回答ください(複数選択可)

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 脳血管疾患(脳卒中)              | 2. 心疾患(心臓病)               |
| 3. 悪性新生物(がん)               | 4. 呼吸器疾患                  |
| 5. 腎疾患(透析)                 | 6. 筋骨格系疾患(骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等) |
| 7. 膠原病(関節リウマチ含む)           | 8. 変形性関節疾患                |
| 9. 認知症                     | 10. パーキンソン病               |
| 11. 難病(パーキンソン病を除く)         | 12. 糖尿病                   |
| 13. 眼科・耳鼻科疾患(視覚・聴覚障害を伴うもの) | 14. その他( )                |
| 15. なし                     | 16. わからない                 |



※主な介護者様、もしくはご本人様にご回答・ご記入(調査票の該当する番号に○)をお願い致します。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください(1つを選択)

1. フルタイムで働いている 2. パートタイムで働いている	→ 問2へ
3. 働いていない 4. 主な介護者に確認しないと、わからない	→ 問5(次ページ)へ

※「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。  
自営業・フリーランス等の場合も就労時間・日数等から「フルタイム」、「パートタイム」のいずれかを選択してください。

問2 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか(複数選択可)

1. 特に行っていない
2. 介護のために、「労働時間を調整(残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等)」しながら、働いている
3. 介護のために、「休暇(年休や介護休暇等)」を取りながら、働いている
4. 介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている
5. 介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている
6. 主な介護者に確認しないと、わからない

問3 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか(3つまで選択可)

1. 自営業・フリーランス等のため、勤め先はない
2. 介護休業・介護休暇等の制度の充実
3. 制度を利用しやすい職場づくり
4. 労働時間の柔軟な選択(フレックスタイム制など)
5. 働く場所の多様化(在宅勤務・テレワークなど)
6. 仕事と介護の両立に関する情報の提供
7. 介護に関する相談窓口・相談担当者の設置
8. 介護をしている従業員への経済的な支援
9. その他( )
10. 特にない
11. 主な介護者に確認しないと、わからない

⇒ 裏面へお進みください

問4 問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか(1つを選択)

1. 問題なく、続けていける
2. 問題はあるが、何とか続けていける
3. 続けていくのは、やや難しい
4. 続けていくのは、かなり難しい
5. 主な介護者に確認しないと、わからない

● ここから再び、全員の方にお伺いします。

問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください  
(現状で行っているか否かは問いません)(3つまで選択可)

〔身体介護〕

- |                          |                |
|--------------------------|----------------|
| 1. 日中の排泄                 | 2. 夜間の排泄       |
| 3. 食事の介助(食べる時)           | 4. 入浴・洗身       |
| 5. 身だしなみ(洗顔・歯磨き等)        | 6. 衣服の着脱       |
| 7. 屋内の移乗・移動              | 8. 外出の付き添い、送迎等 |
| 9. 服薬                    | 10. 認知症状への対応   |
| 11. 医療面での対応(経管栄養、ストーマ 等) |                |

〔生活援助〕

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 12. 食事の準備(調理等)       | 13. その他の家事(掃除、洗濯、買い物 等) |
| 14. 金銭管理や生活面に必要な諸手続き |                         |

〔その他〕

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 15. その他( )             | 16. 不安に感じていることは、特にない |
| 17. 主な介護者に確認しないと、わからない |                      |

問6 介護をするうえでお困りのことはありますか(複数選択可)

1. 適切な介護方法がわからない
2. 認知症状への対応方法がわからない
3. 日中、家を空けるのを不安に感じる
4. 介護のために家事や育児、仕事が思うようにできない
5. 自分の自由になる時間を持ってない
6. 介護にストレスを感じることもある
7. どこに相談していいか、分からないことがある
8. 夜間や休日など、相談したい時間に相談窓口が開いていない
9. 医療と介護について総合的に相談できる窓口がない
10. 経済的不安が大きい
11. 精神的負担が大きい
12. 身体的負担が大きい(睡眠不足・腰痛など)
13. 夜間の介護負担が大きい
14. その他( )
15. 特にない



問7 食事についてお伺いします。主な食事づくりをされている方は、どなたですか（1つを選択）

- |       |          |         |
|-------|----------|---------|
| 1. 本人 | 2. 家族・親族 | 3. ヘルパー |
| 4. 配食 | 5. その他（  | ）       |

問8 食事について困っていることはありますか（1つを選択）

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 困っていることがある | 2. 困っていることはない |
|---------------|---------------|



困っていることは何ですか（複数選択可）

1. 買い物
2. 食事の準備
3. 食事の内容（栄養の偏り・味つけ）
4. 食べる機能（例：むせる・のみこめない・かみにくい物がある・食が細くなったなど）
5. 疾病に配慮した食事
6. その他（

）

問9 食事についての相談先はありますか（1つを選択）

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 相談先がある | 2. ない |
|-----------|-------|



相談先を教えてください（複数選択可）

1. 家族・親族
2. 友人・知人
3. かかりつけ医
4. 通所施設（デイサービスなど）
5. ケアマネジャー
6. 地域包括支援センター（おとしより相談センター）
7. その他（

）

問10 食事について相談できる専門の窓口があれば利用したいですか（1つを選択）

- |          |            |          |
|----------|------------|----------|
| 1. 利用したい | 2. 利用したくない | 3. わからない |
|----------|------------|----------|

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。